

市川市鳥類モニタリング調査報告書

2015 年度～2022 年度



市川市環境部自然環境課

2024 年 1 月

目次

1.	はじめに	1
2.	調査地	1
3.	調査方法	2
4.	調査結果	
4-1.	調査地全体	2
4-2.	大町自然観察園	5
4-3.	大野町4丁目水田	8
4-4.	大野町4丁目ふれあい水田(小川再生親子ふれあい農園)	10
4-5.	こざと公園	12
4-6.	大柏川第一調節池緑地	14
4-7.	柏井調整池	17
4-8.	柏井青少年の森	19
4-9.	小塚山公園	21
4-10.	堀之内貝塚公園	23
4-11.	じゅん菜池緑地	25
4-12.	国分川調節池緑地	27
4-13.	真間山・弘法寺周辺	29
4-14.	里見公園	31
4-15.	江戸川河川敷	33
4-16.	JR市川駅周辺	36
5.	レッドデータ掲載種	38
6.	おわりに	40
7.	引用文献	40
	調査地別の総出現種と個体数(資料)	41

1. はじめに

市川市では 2014 年 3 月に「生物多様性いちかわ戦略」を策定しました。同戦略の施策の一つとして鳥類モニタリング調査（以下、本調査）を開始しました。

調査は、2015 年 7 月から市内の代表する自然環境に生息する鳥類の経年変化を把握し、自然環境保全の施策に資することを目的に実施しています。

生物を指標として環境の変化を監視する手法は良く行われます。鳥類は行動範囲が広く、生態系の中で捕食、種子散布など多様な役割を担っており、環境変化の指標として最適です。

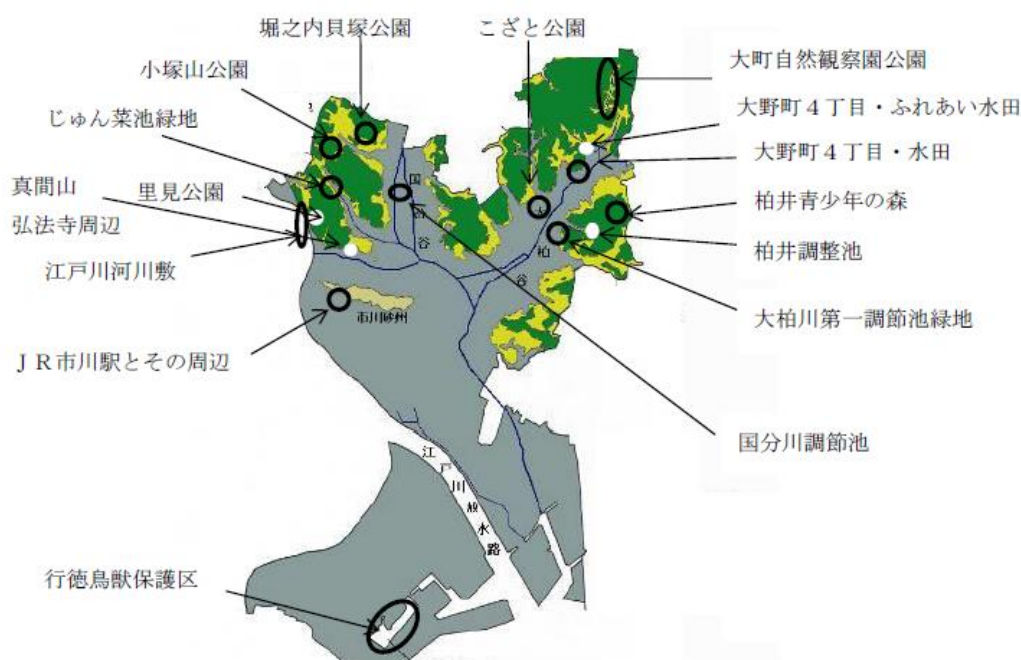
本報告書は 2015 年 7 月から 2023 年 3 月までの調査結果をまとめたものです。

2. 調査地

2001 年から 2003 年まで、市川市自然環境調査会（以下、調査会）により市内の自然環境が調査されました。鳥類についても調査が行われ、報告書がまとめられています。本調査の調査地は、調査会によって鳥類調査が行われた調査地を基本としました。但し、例えば、高谷新町のように埋立地の空き地だった環境に、建物が経ってしまった場所、国分高校敷地内などの調査地は除きました。また、行徳鳥獣保護区は県からの委託により、NPO 行徳自然ほごくらぶ(旧行徳野鳥観察舎友の会)が調査を実施していることから除きました。

本調査では、以下の 15 か所の調査を行いました。

大町自然観察園、大野町 4 丁目水田、大野町 4 丁目ふれあい水田（小川再生親子ふれあい農園）、こざと公園、大柏川第一調節池緑地、柏井調整池、柏井青少年の森、堀之内貝塚公園、小塚山公園、じゅん菜池緑地、真間山・弘法寺周辺、里見公園、江戸川河川敷、JR 市川駅とその周辺、国分川調節池、行徳鳥獣保護区。



3. 調査方法

調査はラインセンサス法により行いました。

調査地毎に設定したルートに沿ってゆっくりと歩きながら、出現した鳥類の種類と個体数を記録しました。繁殖など特記すべき行動は備考欄に記録しました。調査には8倍双眼鏡を使用しました。

調査は原則、月一回午前中に行いました。(柏井調整池とJR市川駅周辺については、2017年度以降は10月から3月のみの調査)

ラインセンサス法はルートを固定化することによって、経年的な比較を可能にする効果があります。各調査地の項で、案内図に調査ルートと調査範囲を示しました。

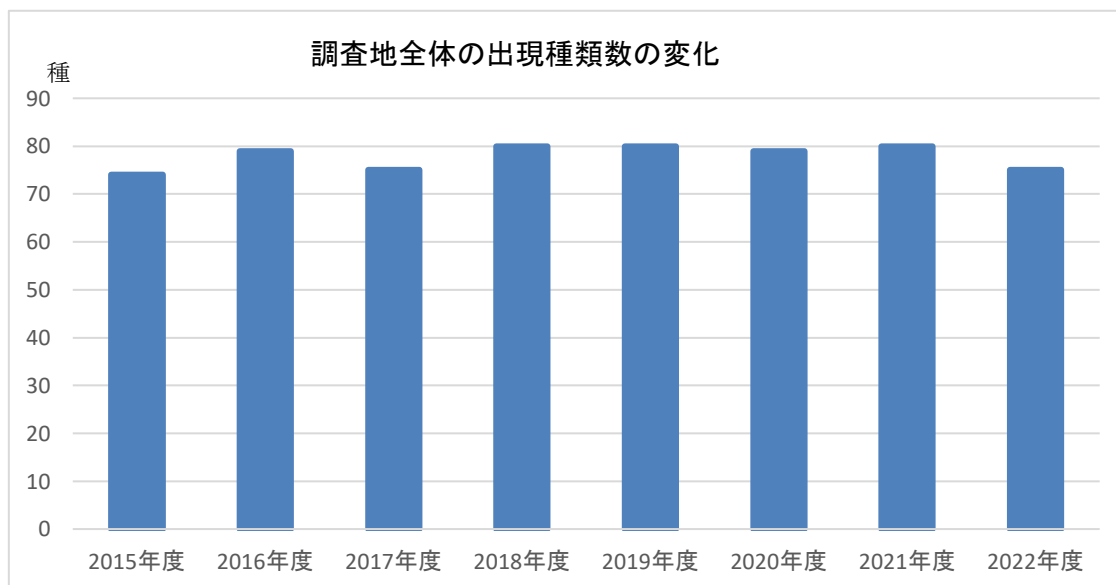
外来種と種が特定できなかった鳥類も記録に残しましたが、分析上の数値からは除いています。

4. 調査結果

4-1. 調査地全体

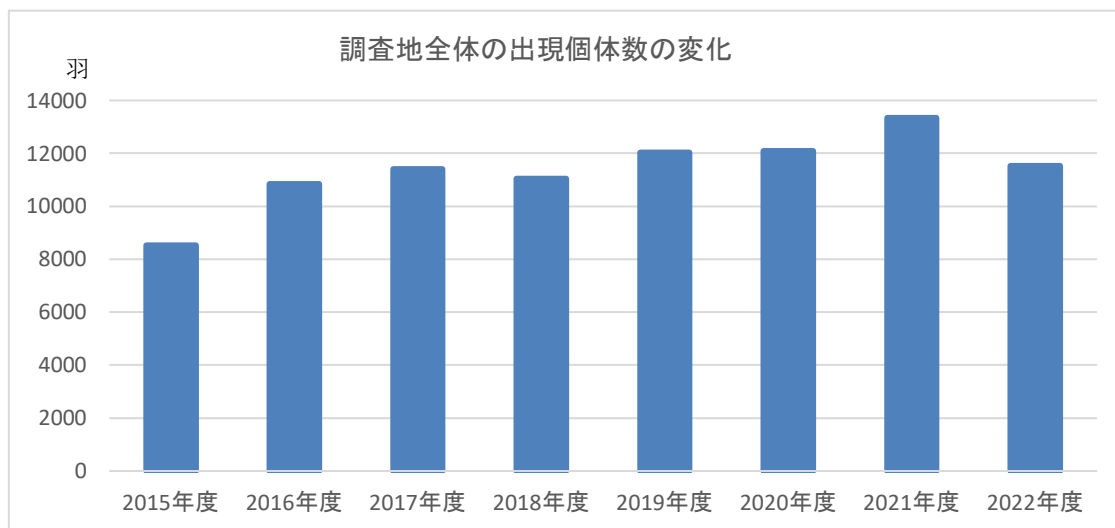
出現種類数の変化

個々の調査地の詳細については後述しますが、15か所の調査地全体で出現した種類数を年度ごとに集計しました。8年間では116種類を確認しました。単年度では74種類から80種類で変動していて、増減の幅は小さいことがわかりました。



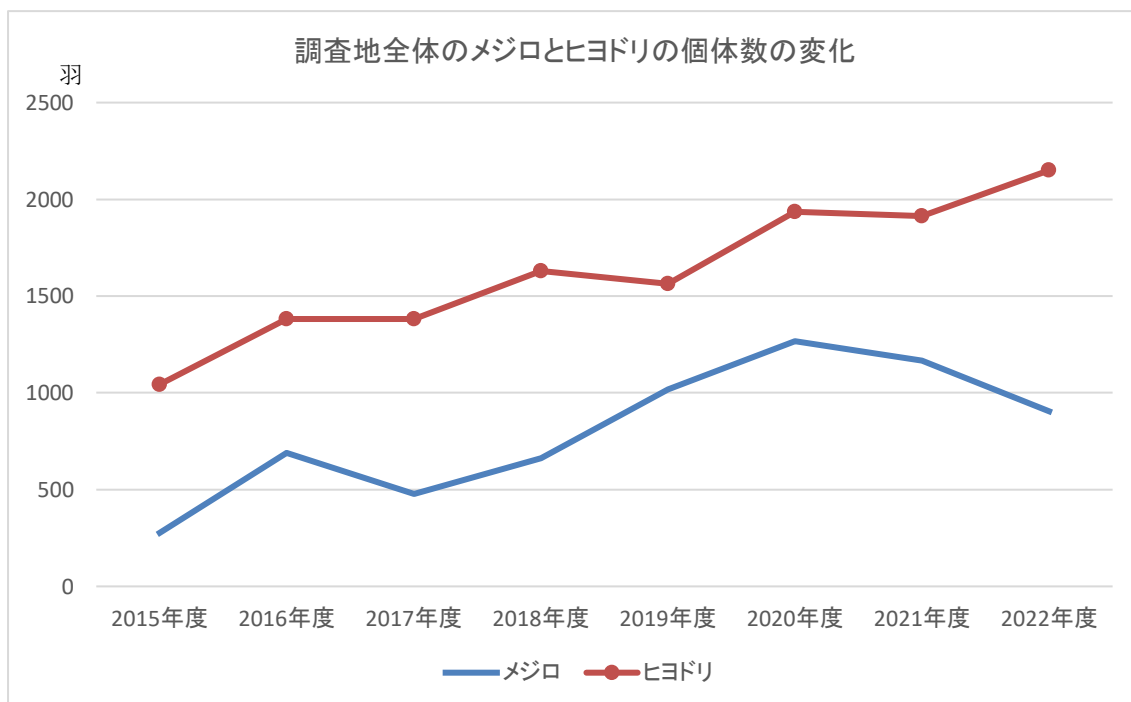
出現個体数の変化

調査地全体で出現した個体数を年度ごとに集計しました。8年間では90,773羽を確認しました。単年度では8,514羽から13,333羽で変動しました。2015年度は7月からの実施ですので、それを除くと最小値は2016年度の10,837羽となりました。



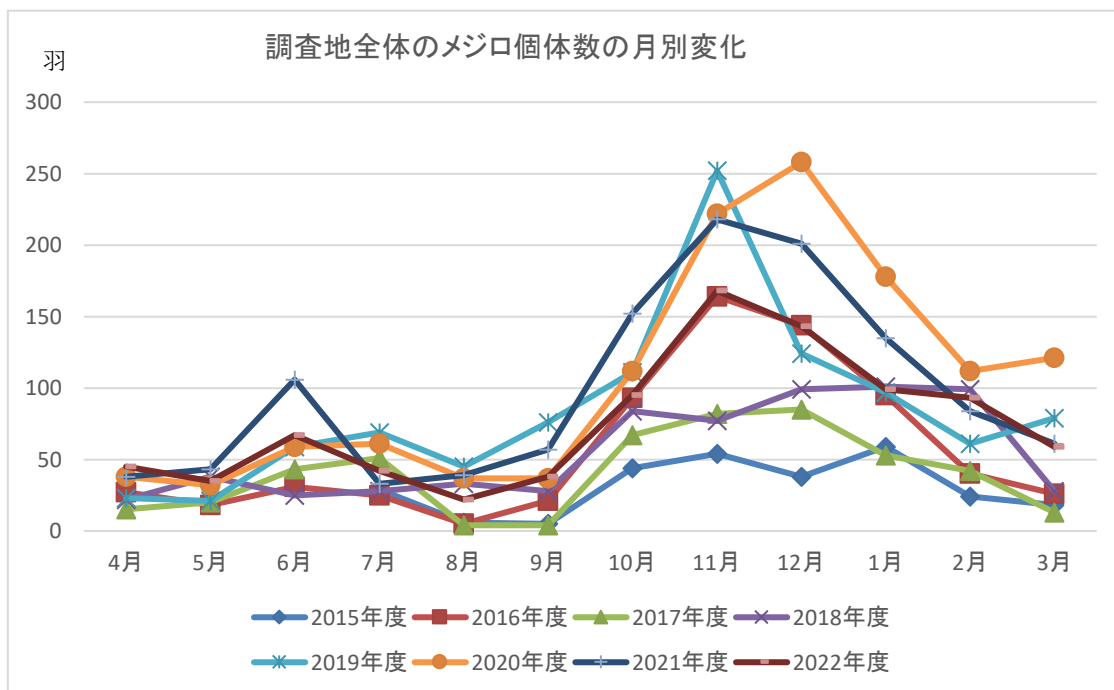
メジロとヒヨドリの個体数の変化

個体数の増減にメジロとヒヨドリが影響していることが認められることから、調査地全体のメジロとヒヨドリの個体数を年度ごとに集計しました。メジロは2020年度までは増加傾向でしたが、その後、減少傾向です。ヒヨドリは増加傾向のようです。両種とも今後の動向に留意する必要があります。

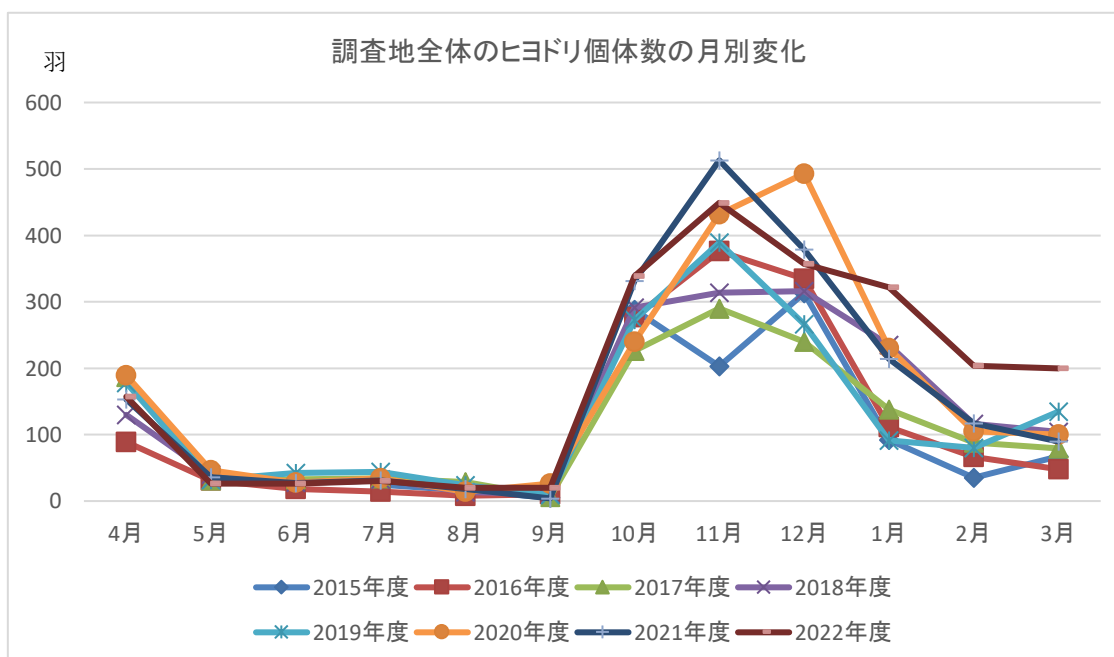


メジロの月別個体数の内訳を見ると、9月から3月に確認される個体数に大きなばらつきが見られました。移動途中の個体が多いと思われます。

4月から6月に確認される個体は、市内及び周辺で繁殖している個体だと思われます。6月・7月の増加は幼鳥の増加によるものと考えられます。



ヒヨドリは10月から4月に確認される個体数が、年度により差が大きく個体数の増減に影響を与えていました。移動途中の個体だと思われます。

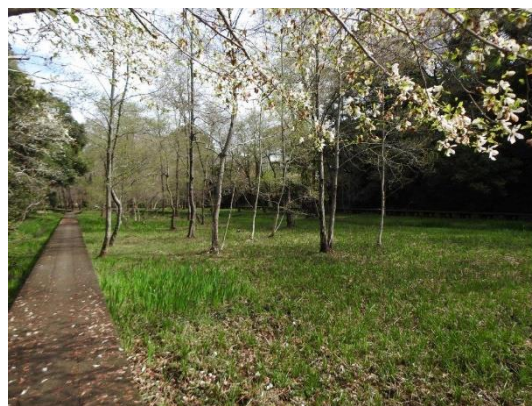
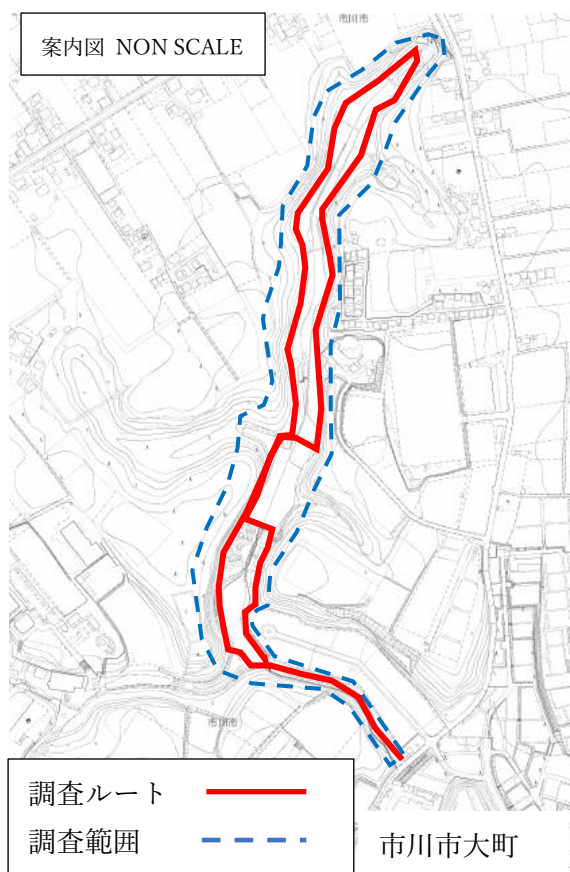


4-2. 大町自然観察園

調査地概要

長田谷津と呼ばれる谷津と斜面林が一体となった自然観察園です。湧き水のある貴重な自然環境です。斜面林はイヌシデ、クヌギ、コナラ、シラカシ、スダジイ、アカガシなど多様な樹林となっています。湿地内の一部にはハンノキ林が見られ、ヨシが優占とする場所も多くなっています。

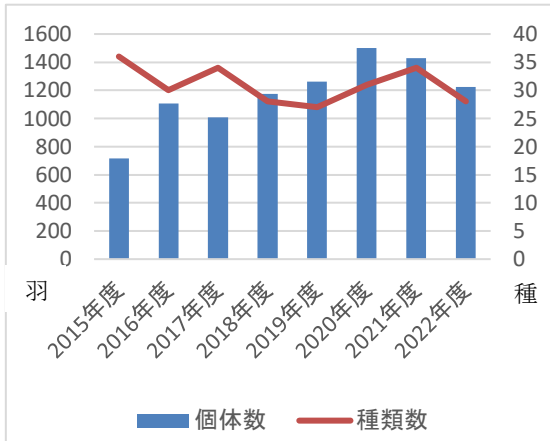
当地は南北に細長い地形をしています。調査は南側入口より開始し、園路に沿ってゆっくりと歩き、北端まで行ったら園路に沿って出発点まで戻りました。帰路については、重複カウントしないように十分留意しました。



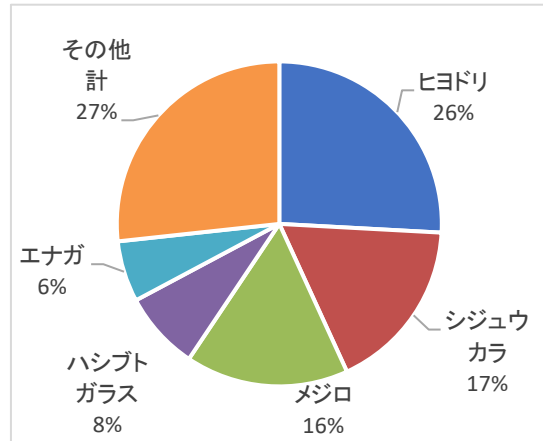
調査結果

2015年7月～2023年3月の8年間で27科52種の鳥類が確認されました。単年度では27種類から36種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は717羽～1,500羽の範囲で変動しています。個体数の変動はヒヨドリとメジロの個体数の影響を受けていました。移動途中と思われる大きな群れに出会うと個体数が増加します。

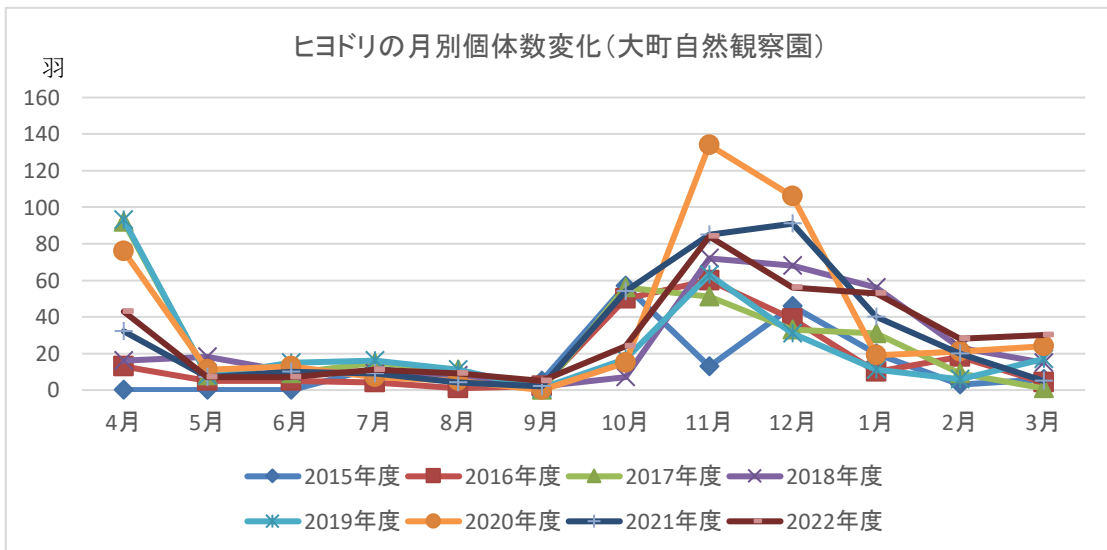
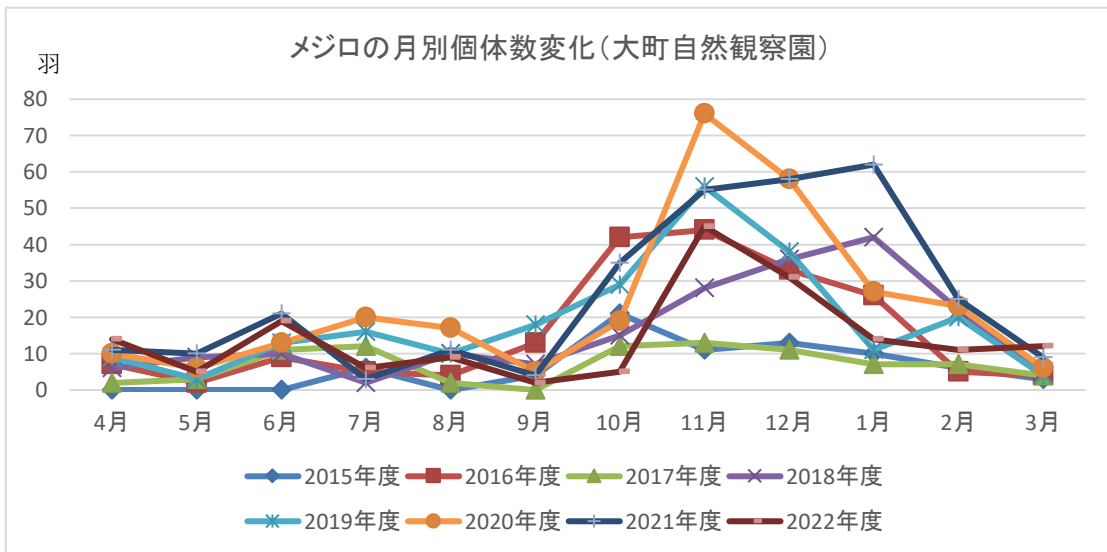
調査期間通期で確認された種別個体数は、ヒヨドリが26%、シジュウカラが17%、メジロが16%、ハシブトガラスが8%、エナガが6%で、上位5種で73%となり、森林性の鳥類が占めています。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合



ウグイス、メジロ、エナガ、ヤマガラ、コゲラ、シジュウカラは5月から6月に家族群がよく観察され、園内で繁殖しているようです。また、キビタキは繁殖期に複数個体の囀りを聴くことが出来、来園者により幼鳥が確認されています。立ち入り禁止区域が多いですが、自然博物館によりオオタカとフクロウの繁殖が確認されるなど、当地が多様な鳥類の生息地として重要であることが伺えます。

千葉県レッドデータブック（千葉県環境生活部自然保護課 2019、以下省略）の категорияで、A（最重要保護生物）は2種、B（重要保護生物）は4種、C（要保護生物）は8種、D（一般保護生物）は3種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば、71種類が記録されています。本調査では52種類と少なくなっていますが、調査方法が違うため単純に比較はできません。調査会によるとカモ類が6種類記録され、個体数も多かったようです。現在ではカモ類の記録は著しく少なくなっています。

調査会は、来園者が餌を与えている事例を記載していますが、現在はそのような行為は見かけません。池自体に堆積した土砂により池の水深が浅くなり、カモ類の生息には不適になったことも減少の一因と考えられます。

調査会によると、外来種のコジュケイが少数観察されていました。本調査では観察されませんでした。コジュケイやキジのような地上性の鳥類は、ノネコやアライグマなどの哺乳類による被害を受けやすいことがあげられます。当地でもノネコ、アライグマが確認されていることから、影響を受けた可能性が高いと思われます。

2019年から発生したナラ枯れにより、園内の多くのコナラが枯れ、伐採が行われていますが、今回の調査期間内では鳥類の出現状況に影響は見られませんでした。



トラツグミ（千葉県 RD：A ランク）

2016年1月12日撮影



ミソサザイ（千葉県 RD：C ランク）

2018年12月24日撮影

4-3. 大野町4丁目水田

調査地概要

民有地ですが、今でも水田として維持されています。休耕地となり草地となっている場所なども含んだ調査地です。調査地の内、水田として維持されている面積は1/4程度です。

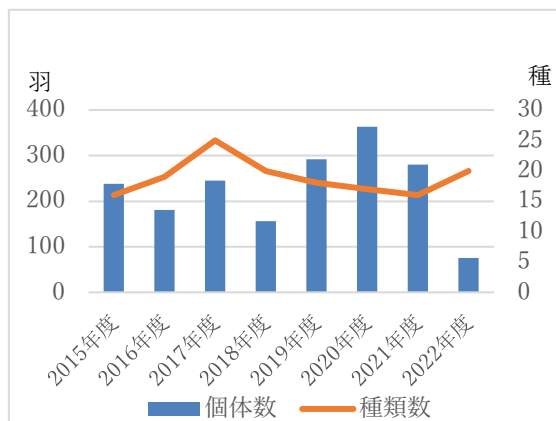


2022年7月22日撮影

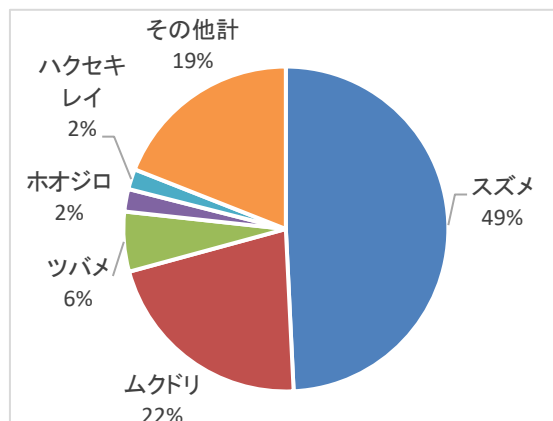
調査結果

28年間で22科35種の鳥類が確認されました。単年度の種数は16種類から25種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は75羽～363羽の範囲で変動しています。個体数の変動に大きな影響を与えたのはスズメです。実った稲や落穂を採餌に来ているスズメの群れに出会うと多くの個体数が記録されます。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、スズメが49%、ムクドリが22%、ツバメが6%、ホオジロが2%、ハクセキレイが2%で、上位5種で81%となりました。スズメやツバメは水田環境に依存する代表的な種といえます。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

当地域内で繁殖又は繁殖の可能性の高い鳥類は確認していません。
千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、B（重要保護生物）は3種、C（要保護生物）は2種、D（一般保護生物）は4種確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば30種類の鳥類が記録され、タゲリが記録されています。タゲリの生息には、ある程度広い田んぼ環境が必要です。当時は田んぼの面積がもっと広がったようです。本調査では35種類が観察されました。調査区域内にあったヨシ原が調査期間内に徐々に整理された結果、ホオジロ類の記録が無くなりました。

2023年後半には、調査地の1/3程の面積の開発が計画されていることから、今後確認される鳥類が激減することは必至です。



チョウゲンボウ（千葉県 RD:D ランク）

2019年12月24日撮影



タシギ

2017年1月13日撮影

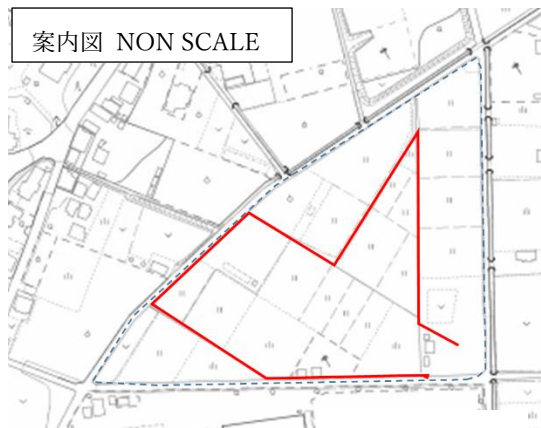


稲を食べるスズメの群れ 2015年9月4日撮影

4-4. 大野町4丁目ふれあい水田

調査地概要

子ども達が稲作を体験する田んぼや畑・花畑がある場所です。小規模ながら梅林もあります。調査地に隣接して畑や梨畑などがあります。調査期間中に、調査地内にあった蓮田が埋め立てられ、資材置き場になりました。



大野町4丁目

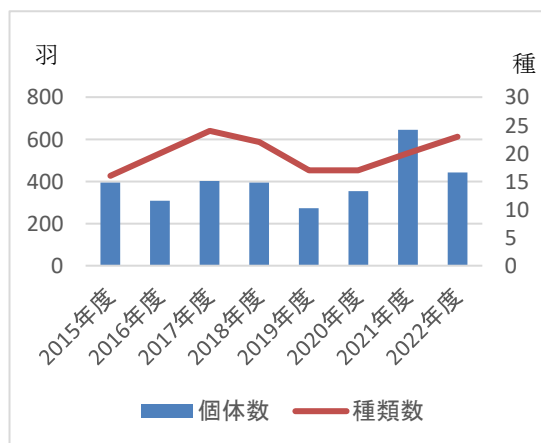


2021年9月10日撮影

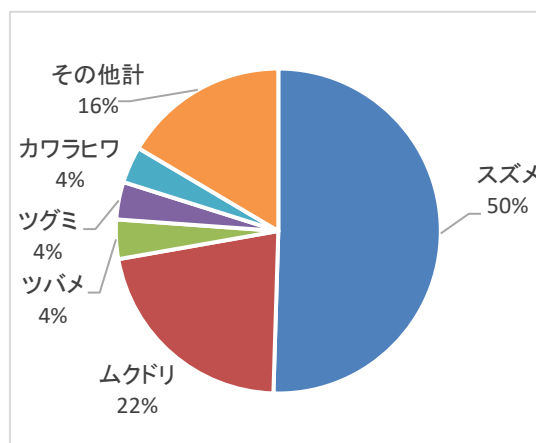
調査結果

8年間で16科36種の鳥類が確認されました。単年度の種数は16種類から24種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は274羽～644羽の範囲で変動しています。同じ水田環境の大野町4丁目水田と出現種がよく似ています。個体数の変動に影響を与えたのがスズメであることも同じです。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、スズメが50%、ムクドリが22%、ツバメが4%、ツグミが4%、カワラヒワが4%で、上位5種で84%となりました。上位3種がスズメ・ムクドリ・ツバメで大野町4丁目水田と同じです。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

当調査地又は周辺でコチドリが繁殖している可能性があります。
千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、B（重要保護生物）は4種、C（要保護生物）は3種、D（一般保護生物）は4種確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会による調査地ではありませんが、市内では貴重な水田環境が保たれているため、本調査地として追加しました。

市の施設であるため、現在の田んぼ環境は維持されると思われます。

チュウサギやタシギが観察され、市内では珍しいホオアカも確認されました。また、スズメとツバメにとっては重要な環境です。



コチドリ（千葉県 RD：B ランク）
2016年3月22日撮影



チュウサギ（千葉県 RD：B ランク）
2021年4月22日撮影



巣材に必要な泥を集めるツバメ 2021年4月22日撮影

4-5. こごと公園

調査地概要

こごと公園は、道路を挟んで「北公園」と「南公園」に分かれ、池の周囲には園路が整備されています。北公園の池の3分の1程にヨシが生えていています。南公園の池はスイレンなどが生えています。周囲は住宅街です。

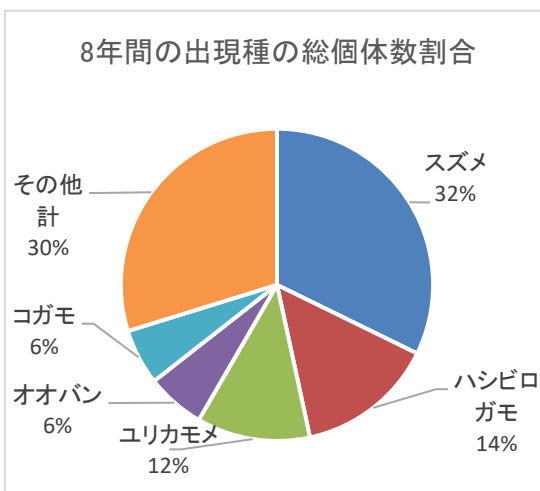
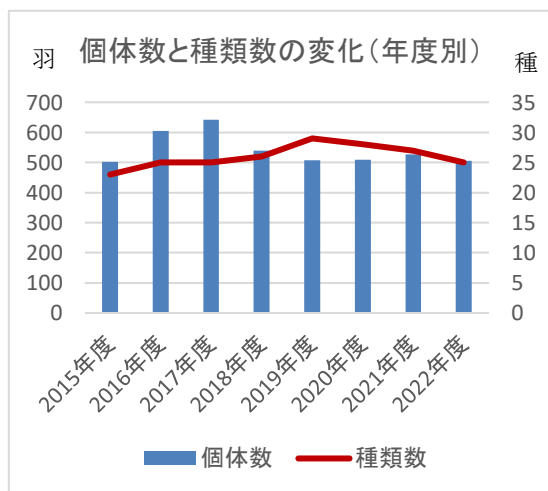


こごと公園の南公園
2021年7月25日撮影

調査結果

8年間で25科45種の鳥類が確認されました。単年度の種数は23種類から29種で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は502羽～642羽の範囲で変動しています。個体数にも大きな変動はありません。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、スズメが32%、ハシビロガモが14%、ユリカモメが12%、オオバンが6%、コガモが6%で、上位5種で70%となっています。1位のスズメを除き、水鳥が優占しているのが特徴です。



バン、カルガモが繁殖しています。オオヨシキリが 2021 年度までは繁殖期に確認され、繁殖していた可能性があります、徐々に個体数を減らし、2022 年には確認できませんでした。外来種のコブハクチョウが 2016 年と 2017 年に繁殖しました。

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで B（重要保護生物）は 4 種、C（要保護生物）は 5 種、D（一般保護生物）は 5 種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によると、39 種類の鳥類が記録され、ヨシゴイ、カルガモ、バンの繁殖が確認されています。本調査では 45 種類が記録され、カルガモとバンの繁殖は確認しましたが、ヨシゴイは確認できませんでした。

北公園ではヨシ原の半分を冬期に刈り残す管理を行っています。この管理手法が調査会により提言されており、提言を採用したものと思われます。オオジュリンやシジュウカラ、メジロなどがえさ場として利用しているのが確認されています。



バンの親子（千葉県 RD：B ランク）
2022 年 6 月 14 日撮影



オオジュリン（千葉県 RD：D ランク）
2019 年 2 月 12 日撮影



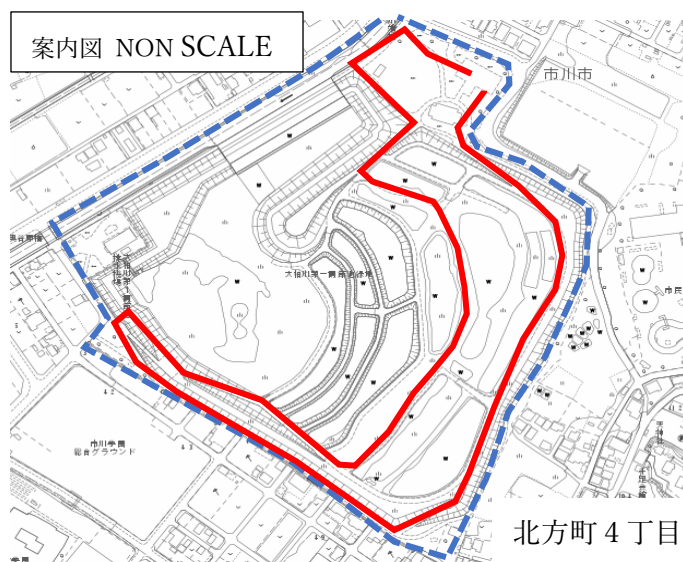
枯れたヨシ原を一部残している（こざと北公園） 2020 年 1 月 17 日撮影

4-6. 大柏川第一調節池緑地

調査地概要

2000年から2003年に大柏川の治水対策として造成された施設です。川の増水時には調節池の機能を発揮し、平常時には市民が利用できる緑地として整備されました。多くのエリアを内陸湿地の復元の場所とし、立ち入り禁止のエリアも設けてあります。ヨシやヒメガマなどの抽水植物が多くを占めますが、年間の管理作業の中で、草刈りや耕転が行われています。

ビジターセンターが設置され、市専門員による生きもの観察会が定期的に行われています。他、ボランティア団体による調査や観察会も行われています。



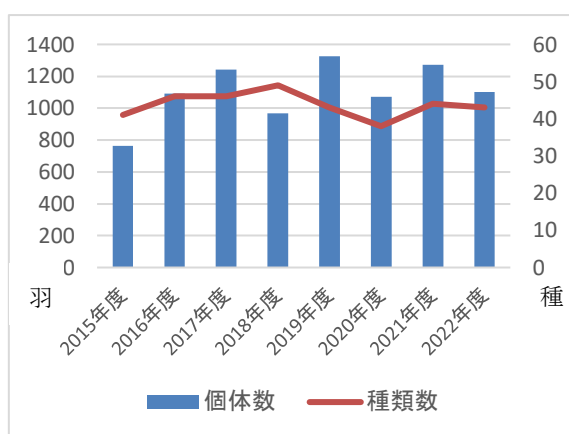
ビジターセンター前から南を望む 2021年7月25日撮影

調査結果

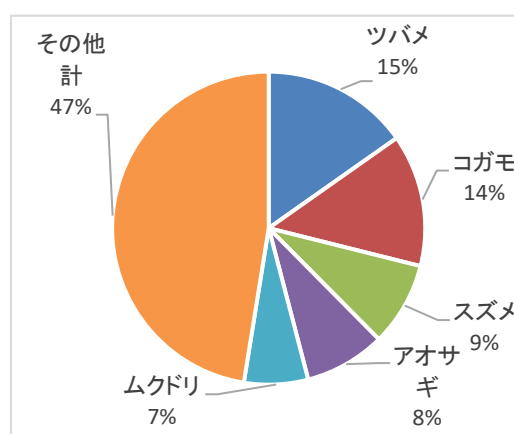
8年間で30科64種の鳥類が確認されました。単年度の種数は38種類から49種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は763羽～1,327羽の範囲で変動しています。スズメとムクドリが群れで観察されることがあり、その際は記録個体数が増加します。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ツバメが15%、コガモが14%、スズメが9%、アオサギが8%、ムクドリが7%で、上位5種で53%となっています。

ビジターセンターの軒下で、ツバメが集団営巣しています。ツバメが優占個体数の第1位となっていることは大きな特徴と言えます。ツバメが安心して営巣できるビジターセンターがあることと、餌の昆虫が豊富であることを証明しています。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

繁殖している種は推定を含め、カイツブリ、アオサギ、モズ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ホオジロなど多くの鳥類の繁殖場所としても重要な環境となっています。アオサギの集団営巣が2020年から確認されています。

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、X（消息不明・絶滅生物）は1種、A（最重要保護生物）は2種、B（重要保護生物）は6種、C（要保護生物）は8種、D（一般保護生物）は7種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会による調査は2001年4月から2003年3月に行われているので、工事期間内の調査だったようです。72種類の鳥類が記録されています。本調査では64種類が記録されました。

調査会の調査は植生が復元される前で、現在のようにヨシやヒメガマが生い茂る環境とは違っていたと思われます。多くのシギ・チドリ類が確認されていることから、シギ類が好む水たまり的な環境やチドリが好む疎な背丈の低い草地などの環境が存在していたと思われます。

現在では、オオヨシキリ、セッカ、オオジュリンなどのヨシ原環境を好む種が増加しました。また、実生で生えたヤナギ類などが育っていて、樹林環境を好むコムドリなども飛来するようになりました。

大柏川第一調節池緑地は、市民と行政の協働のもとに自然環境創造型の調節池として整備され、管理運営されています。市川市の原風景ともいえるこの場所を大切にしたいものです。



アオサギ（親子）
2022年3月27日撮影



モズ（幼鳥）
2019年5月10日撮影



ツバメ（ヒナ）
2016年7月15日撮影



カイツブリ親子（千葉県 RD：C ランク）
2020年6月2日撮影

4-7. 柏井調整池

調査地概要

集中豪雨時などに、河川の増水を緩和するため、一時的に雨水を溜める為の池です。調査会の調査時は水生植物が生えた環境だったようです。本調査開始時には水生植物はなく、水がたまった池の状態でした。

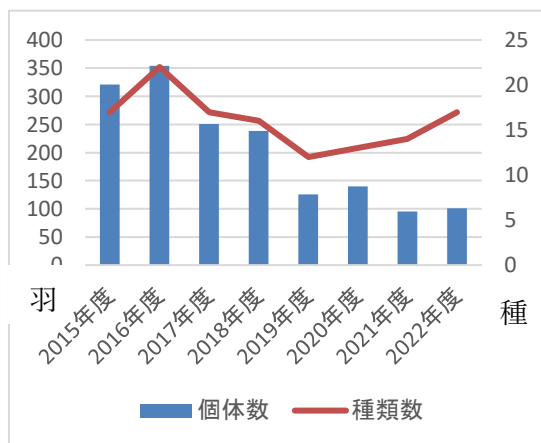


2021年6月8日撮影

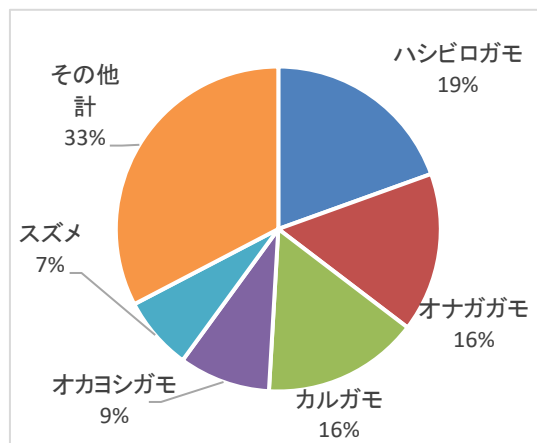
調査結果

8年間で18科33種の鳥類が確認されました。単年度では12種類から22種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は95羽～354羽で変動し、減少傾向です。冬期に飛来するカモ類の減少によるものです。

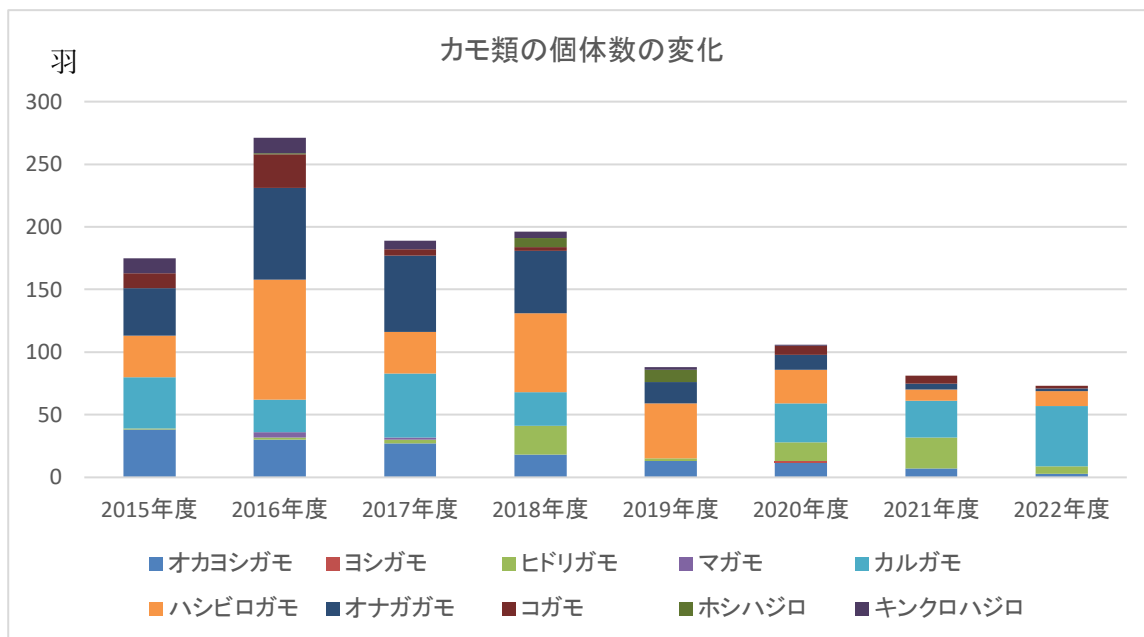
調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ハシビロガモが19%、オナガガモが16%、カルガモが16%、オカヨシガモが9%、スズメが7%で、上位5種で67%となります。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合



千葉県レッドデータブックの категорияで、B（重要保護生物）は3種、C（要保護生物）は4種、D（一般保護生物）は1種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較と考察

調査会によると35種の鳥類が記録され、本調査では33種とほぼ同じです。調査会によれば当時は、ヒメガマ、ヨシなどの抽水植物が繁茂していたようです。カイツブリの繁殖が記載されています。現在、当地で繁殖する鳥類は確認されていません。

本調査時には、プールのような状態が多かったため、カモ類は記録されています。周囲はフェンスに囲まれ、人の影響を受けず、安心して休むことができるためと思われます。近年の減少の理由は不明ですが、水深などの影響があるかも知れません。



護岸で休むカモ類
2019年12月20日撮影



ヨシガモ（千葉県RD：Bランク）
2021年1月19日撮影

4-8. 柏井青少年の森

調査地概要

船橋市に隣接する平坦な地形の雑木林です。イヌシデ、コナラが中心で、シラカシやシロダモなどが散在しています。また、一部にはスギ、ヒノキの植林があります。市民の実習林としても活用されていて、雑木林の中には散歩道が整備されています。

案内図 NON SCALE



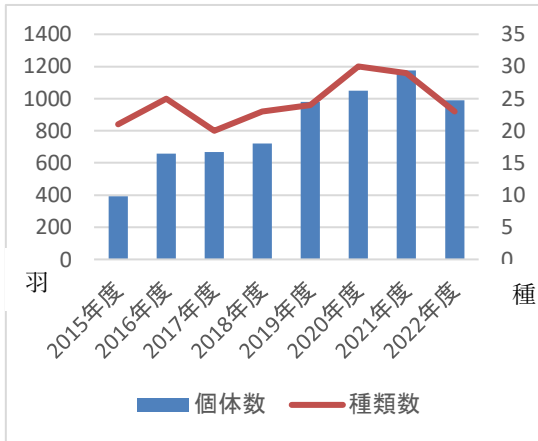
2020年4月14日撮影

調査結果

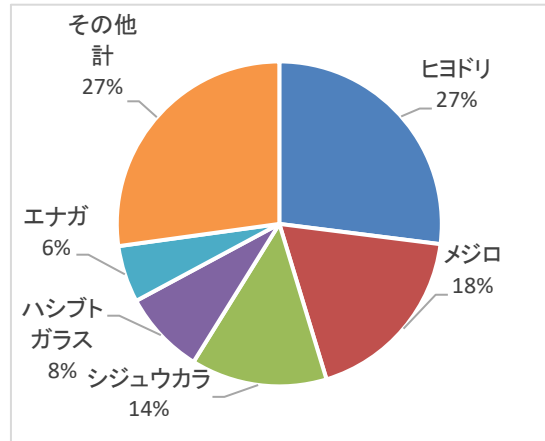
8年間で23科42種の鳥類が確認されました。単年度では20種類から30種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は394羽から1,175羽の範囲で変動し、増加傾向のようにも見えますが、内訳を見るとヒヨドリ、メジロ、コゲラによることになりました。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒヨドリが27%、メジロが18%、シジュウカラが14%、ハシブトガラスが8%、エナガが6%で、上位5種で73%となり、森林性の鳥類が占めました。

繁殖期の記録状況から、ウグイス、エナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラ、キビタキなどが繁殖しているものと思われます。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、X（消息不明・絶滅生物）は1種、A（最重要保護生物）は3種、B（重要保護生物）は2種、C（要保護生物）は5種、D（一般保護生物）は2種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば、2002年4月から2003年10月までの調査で36種類の鳥類を記載しています。報告書には、2001年に自然博物館により確認された、ダイサギ、コサギ、カルガモの水鳥の記載がありますが、今回は記録されませんでした。当時は池の環境があったものと思われます。本調査では42種類が確認されました。

コゲラが2019年頃から増加しています。当地では、ナラ枯れによる枯れ木を放置しているものが多いため、コゲラが営巣するには有利に働いた可能性があります。



キビタキ（千葉県 RD：A ランク）
2022年5月15日撮影



サンショウクイ（千葉県 RD：X ランク）
2016年5月6日撮影

4-9. 小塚山公園

調査地概要

コナラ、クヌギ、イヌシデなどの落葉樹とシラカシなどの常緑樹が混在しています。森の中には遊歩道が設けられています。公園の一部が立ち入り禁止となっています。

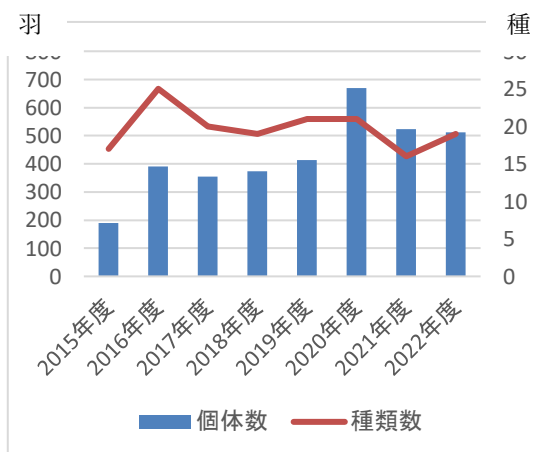


2017年4月18日撮影

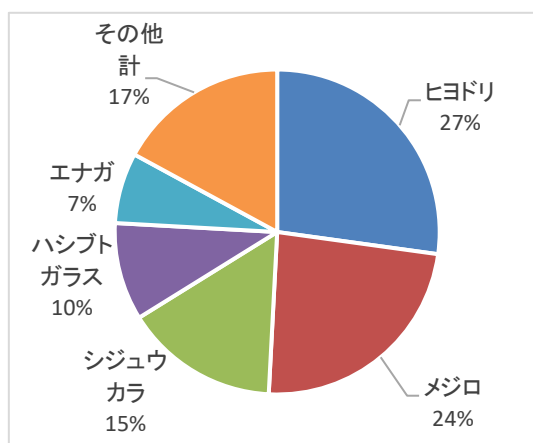
調査結果

8年間で19科32種の鳥類が確認されました。単年度では16種類から25種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は189羽～669羽で変動し、変動が大きいのはメジロ・ヒヨドリの影響が大きかったことがわかりました。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒヨドリが27%、メジロが24%、シジュウカラが15%、ハシブトガラスが10%、エナガが7%で上位5種と83%となり、森林性の鳥類が占めました。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

繁殖している種は推定を含め、オオタカ、エナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラなどが挙げられます。

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、A（最重要保護生物）は2種、C（要保護生物）は2種、D（一般保護生物）は2種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば、53種が記録されています。本調査では32種類と減少しています。調査会によるとヒタキ類やムシクイ類の旅鳥が6種類記録されていますが、本調査では旅鳥の記録が少ないことなどが一因です。

調査会によると、オオタカの記録は1度だけで稀な記録でしたが、本調査では繁殖が確認されました。ナラ枯れにより伐採作業が行われ、オオタカへの影響が懸念されましたが、繁殖が継続していることが確認されました。



オオタカ（ヒナ）

2016年6月22日撮影



オオタカ（若鳥）

2021年7月13日撮影

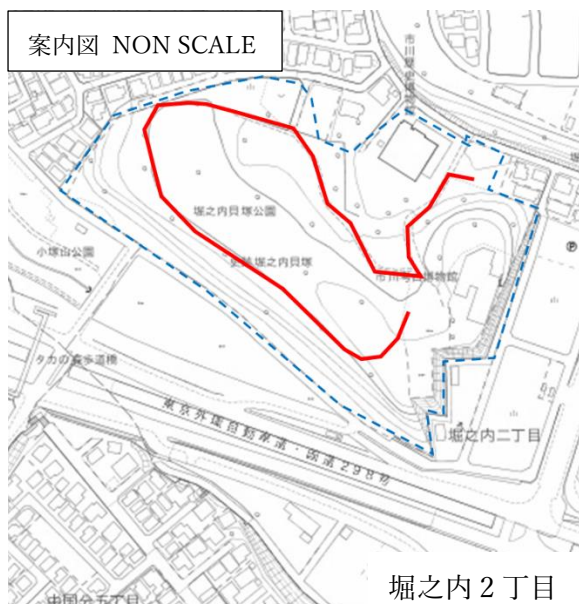


バリケードにより立ち入りが出来ない部分がある 2017年4月18日撮影

4-10. 堀之内貝塚公園

調査地概要

国指定の史跡で貝塚公園になっています。イヌシデ、コナラ、クヌギなどの落葉広葉樹が主体で、シラカシなどの常緑樹が散在します。一部にハリエンジュの樹林が形成されていましたが、倒木等により伐採され現在はほとんどありません。ハリエンジュが伐採され空地となった場所には、ドングリから育てたクヌギやコナラの苗木が植えられています。ボランティアにより下草狩りなどの管理も行われています。



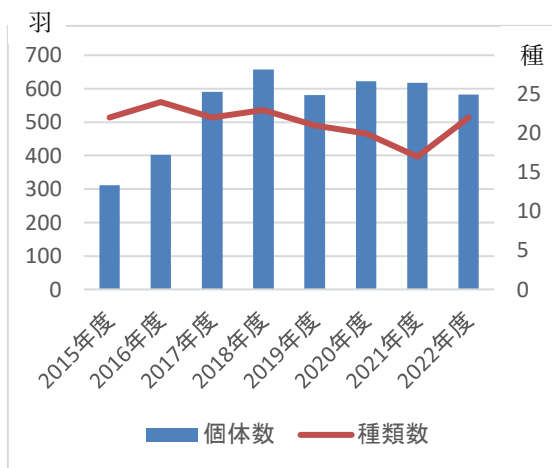
ハリエンジュの伐採状況
2021年12月9日撮影

調査結果

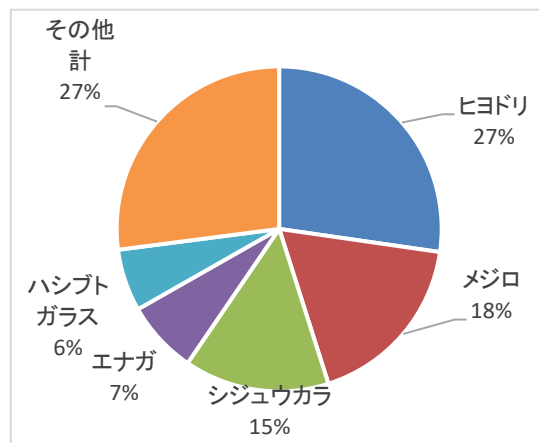
8年間で20科35種の鳥類が確認されました。単年度では17種～24種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は311羽～658羽で変動しています。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒヨドリが27%、メジロが18%、シジュウカラが15%、エナガが7%、ハシブトガラスが6%で、上位5種で73%となり、森林性の鳥類が占めました。東京外環道路を挟んで隣接する小塚山公園と構成種が似ています。繁殖している種は推定を含め、エナガ、コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラなどです。

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、A（最重要保護生物）は4種、B（重要保護生物）は1種、C（要保護生物）は3種、D（一般保護生物）は2種でした。千葉県のレッドデータブックには記載はありませんが、国のレッドデータブックでEN（絶滅危惧IB類）に指定されているブッポウソウが記録されました。



個体数と種類数の変化



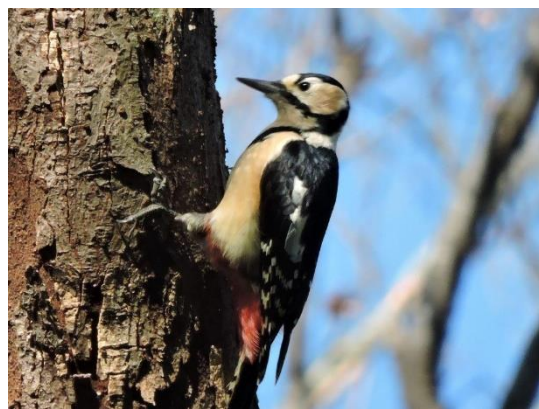
8年間の出現種の総個体数割合

市川市自然環境実態調査との比較と考察

調査会によれば、当時隣接地であった低地の道免き谷津（どうめきやつ）を合わせて 55 種が記録されています。当時は小塚山公園と堀之内貝塚公園の間に低地の道免き谷津が一体となった環境でしたが、現在では東京外環道路が分断しています。本調査では 35 種類の記録に減ったのは、この環境変化が影響した可能性が考えられます。小塚山公園での確認種類数の減少も同様の影響が考えられます。



ブッポウソウ（国 RD：絶滅危惧 I B 類）
2015 年 7 月 10 日撮影

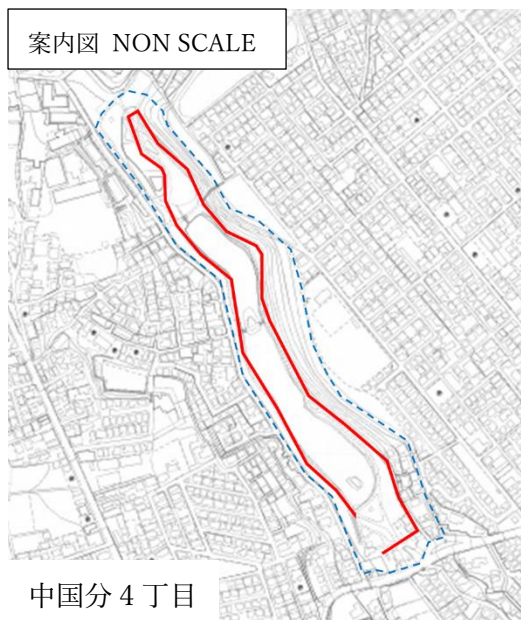


アカゲラ（千葉県 RD：C ランク）
2017 年 1 月 13 日撮影

4-11. じゅん菜池緑地

調査地概要

公園の大半は人工池の水面に占められますが、周囲にはサクラ類などをはじめ多くの種類の樹木が植えられています。東側には斜面林が残っていて、イヌシデ、コナラ、ムクノキなどの落葉樹、シラカシ、スダジイなどの常緑広葉樹が混在しています。西側は道路を挟んで住宅街となっています。



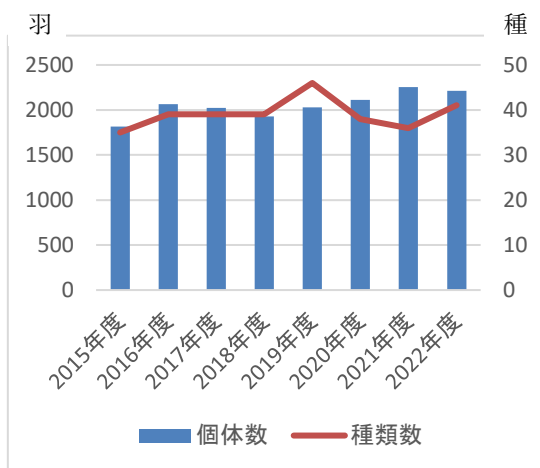
2021年5月25日撮影

調査結果

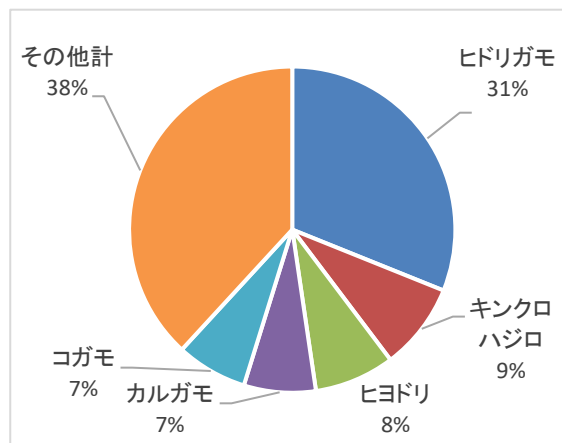
8年間で28科64種の鳥類が確認されました。単年度では35種類から46種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は1,814羽～2,257羽の変動で概ね安定しています。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒドリガモが31%、キンクロハジロが9%、ヒヨドリが8%、カルガモが7%、コガモが7%で、上位5種で62%となります。カモ類が上位5種の内4種を占めるのが特徴です。

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、A（最重要保護生物）は2種、B（重要保護生物）は5種、C（要保護生物）は8種、D（一般保護生物）は5種が確認されました。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば、当時は 68 種類の鳥類が記録され、本調査で記録された 64 種類とほぼ同様です。

市川市自然環境実態調査報告書には個体数の記載はありませんので、カモ類の増減については言及できません。しかし、餌やりに集る傾向があるオナガガモとユリカモメが頻繁に観察されていることから、当時は餌やりが頻繁に行われていたことが、推測されます。

現在では、野生生物への餌やりを禁止する啓発が浸透して、餌やり行為は減少しています。現在ではユリカモメの記録は無く、オナガガモもごく少数のみの記録になりました。



オシドリ (千葉県 RD : B ランク)
2018 年 11 月 30 日撮影

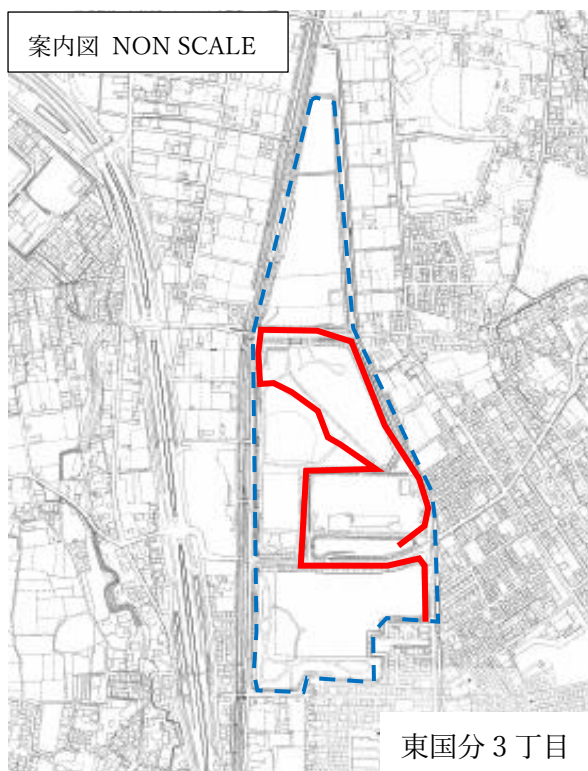


ミコアイサ
2016 年 2 月 9 日撮影

4-12. 国分川調節池緑地

調査地概要

国分川調節池は、真間川流域の総合治水対策事業の一環として、国分川と春木川の洪水軽減を目的に千葉県により整備された治水施設です。大柏川第一調節池緑地の考え方が受け継がれて整備され、一部が自然復元ゾーンや 自然ふれあいゾーンとして整備され、ヨシやヒメガマ等が生えた湿地になっています。



2020年4月10日撮影

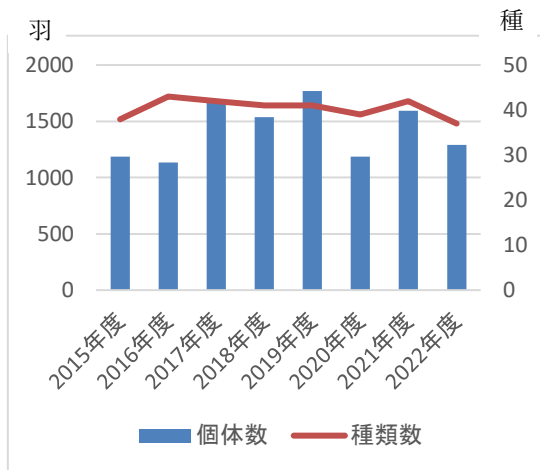
調査結果

8年間で30科62種の鳥類が確認されました。単年度では27種類から36種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。個体数は1,186羽～1,768羽の変動があり、年度により個体数が変化しています。これは、秋から冬に群れて観察されることがあるスズメとムクドリによるところが大きく、群れに遭遇すると個体数が増加します。

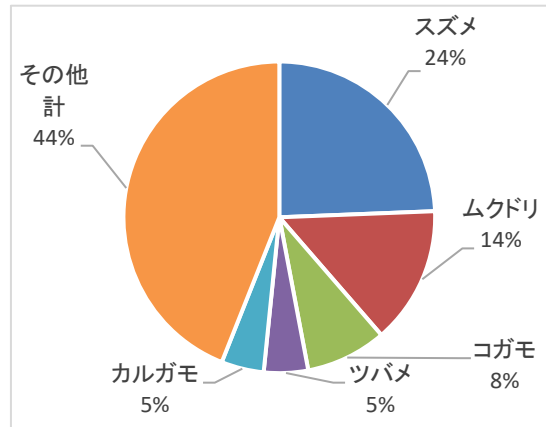
調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、スズメが24%、ムクドリが14%、コガモが8%、ツバメが5%、カルガモが5%で、上位5種で56%となっています。

繁殖している種は推定を含め、オオヨシキリ、セッカ、バン、カイツブリ、アオサギがあげられます。

※付記) 今回報告書の期間には含まれませんが、2023年7月にヒクイナ(千葉県RD:Aランク)の幼鳥2羽が確認されました。当地で繁殖したものと思われます。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

千葉県レッドデータブックの категорияで、X（消息不明・絶滅生物）は1種、A（最重要保護生物）は2種、B（重要保護生物）は7種、C（要保護生物）は7種、D（一般保護生物）は7種が確認されました。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば72種類が確認されています。当時は遊水池が整備される前の暫定施設で、現在とは環境が大分違うと思いますが、カラシラサギ、ヨシゴイ、チュウヒ、コジュリンなどの希少種が記録されていました。本調査では62種が記録されました。

調査期間中の環境の変化として、ヨシやヒメガマなどの抽水植物の繁茂により開けた水面が減少したことがあげられます。特に東国分中学校の北側の自然復元ゾーンの池では、ヨシやヒメガマの繁茂により水面が見えなくなっています。水面が見えるような湿地環境の管理をすると、多くの鳥類の飛来が期待できると思われます。



クイナ（千葉県 RD：X ランク）
2016年1月19日撮影



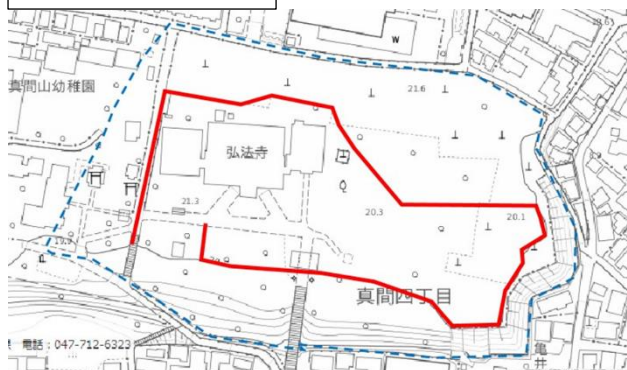
セイタカシギ（千葉県 RD：A ランク）
2016年4月12日撮影

4-13. 真間山・弘法寺周辺

調査地概要

真間山弘法寺は台地にあり、南側の斜面林にはスダジイやクスノキの大木が多く、境内にもタブノキ、ケヤキ、ムクノキ、モミなどの大木があります。

案内図 NON SCALE



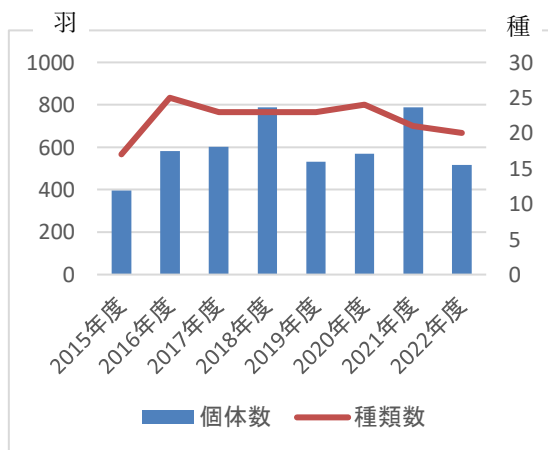
真間4丁目

2015年7月10日撮影

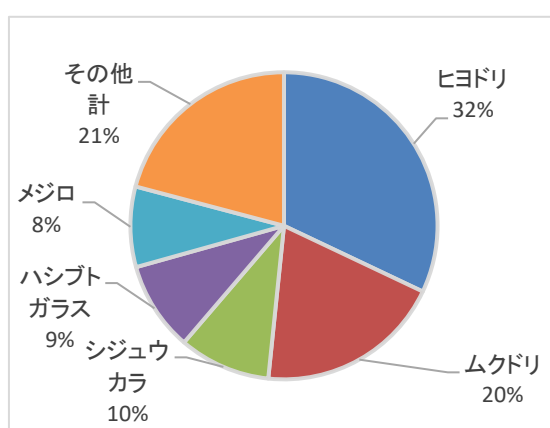
調査結果

8年間で20科36種の鳥類が確認されました。単年度では17種類から25種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は396羽～787羽で変動しています。タブノキが実をつける夏に、ムクドリが群れが実を食べにやって来ます。群れに遭遇すると記録個体数が増加します。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒヨドリが32%、ムクドリが20%、シジュウカラが10%、ハシブトガラスが9%、メジロが8%で、上位5種で79%となりました。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、A（最重要保護生物）は2種、B（重要保護生物）は2種、C（要保護生物）は2種、D（一般保護生物）は2種が確認されています。

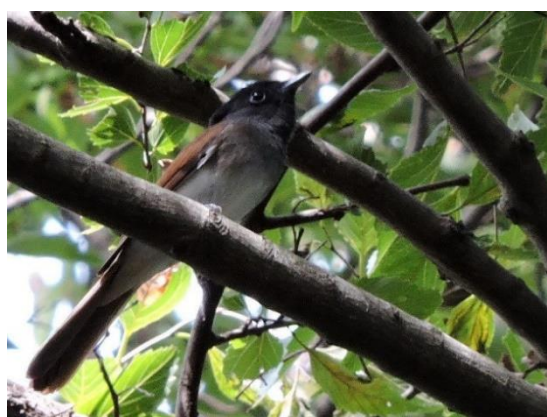
市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば、33種類が確認されています。本調査では36種類が確認され、ほぼ同様の結果となりました。

調査期間中の、鳥類の出現に影響の可能性のある環境の変化は、大木の強剪定があげられます。特に境内の南側の階段周辺の緑量は大きく減少しています。



ツミ（千葉県 RD：D ランク）
2022年5月10日撮影



サンコウチョウ（千葉県 RD：A ランク）
2017年9月15日撮影

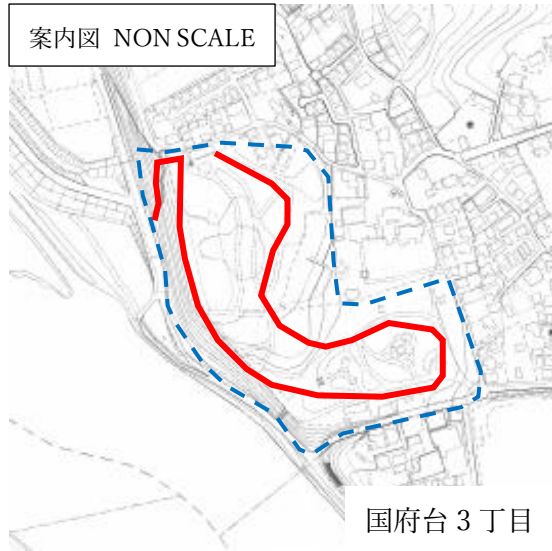


境内のクスノキの大木につくられたツミの巣（途中放棄） 2022年6月17日撮影

4-14. 里見公園

調査地概要

江戸川沿いの台地上の公園で、バラ園や芝生広場があり、サクラ類も多く植栽されています。シラカシ、スタジイ、タブノキ、ケヤキなどの大木が多い公園です。樹林地の中に滝と池があります。

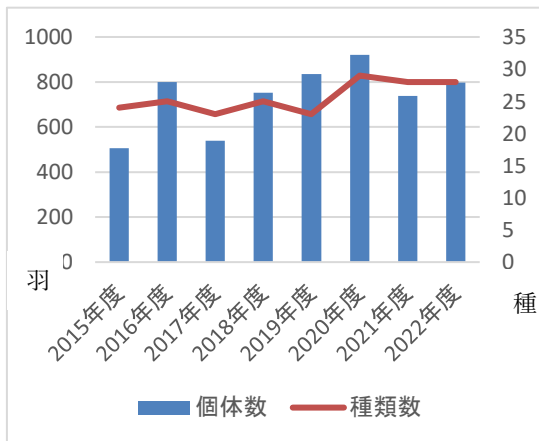


2023年8月25日撮影

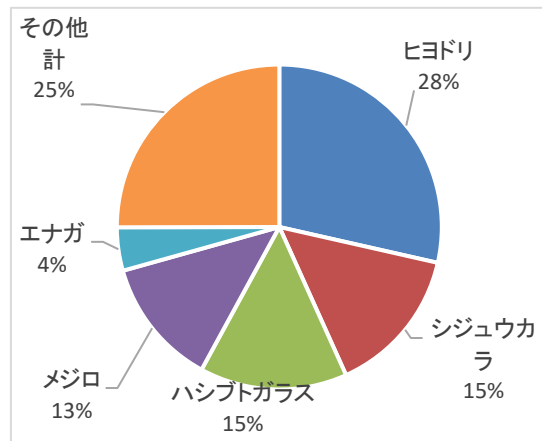
調査結果

8年間で26科46種の鳥類が確認されました。単年度では23種類から29種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は506羽～921羽の変動となっています。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒヨドリが28%、シジュウカラが15%、ハシブトガラスが15%、メジロが13%、エナガが4%で、上位5種で75%となっています。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

繁殖している種は推定を含め、フクロウ、エナガ、コゲラ、シジュウカラ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、メジロなどです。

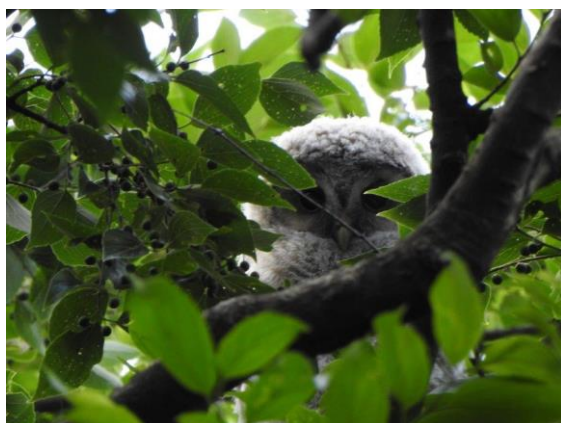
千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、A（最重要保護生物）は3種、B（重要保護生物）は3種、C（要保護生物）は5種、D（一般保護生物）は2種が確認されています。

市川市自然環境実態調査との比較と考察

調査会によれば、58種類が確認されています。本調査では46種と少なくなっています。

当時はアオバズクが繁殖していましたが、現在では確認できなくなってしまったのは残念です。本調査時には確認できませんでしたが、当地又は周辺で、フクロウの繁殖が確認されました。フクロウが繁殖できるような、大木・古木があるからです。

里見公園はバードウォッチャーの間では、渡り途中の小鳥類が頻繁に観察されることで知られています。「大河川・江戸川に面した豊かな緑」という環境が関係しているかも知れません。本調査では、渡り途中の小鳥類の記録が少なかったのが残念です。しかし、2019年8月27日に旅鳥のセンダイムシクイが、シジュウカラ・エナガ・メジロの混群に15羽が混ざっているのが記録されました。市内でこれだけ多くのセンダイムシクイが、同時に記録された例はほとんどないと思われます。



フクロウのヒナ（千葉県 RD：B）
2019年6月25日撮影



キマユムシクイ（ごく稀な旅鳥又は冬鳥）
2021年3月9日撮影

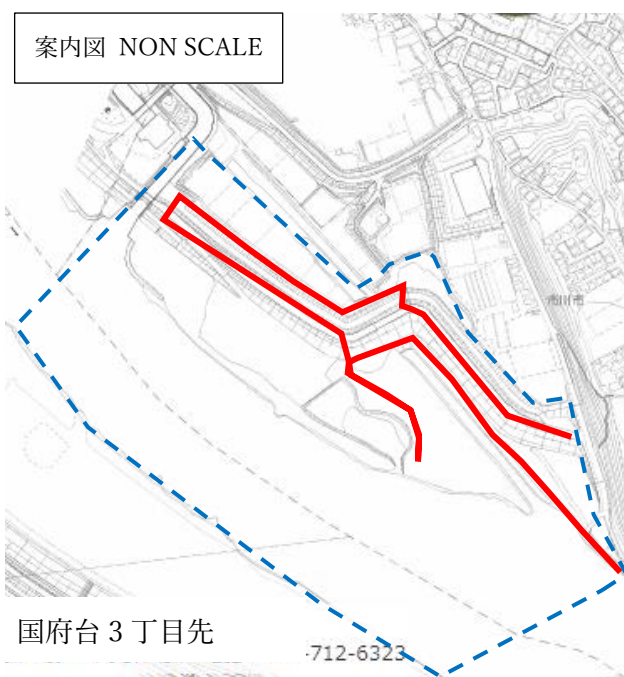
4-15. 江戸川河川敷

調査地概要

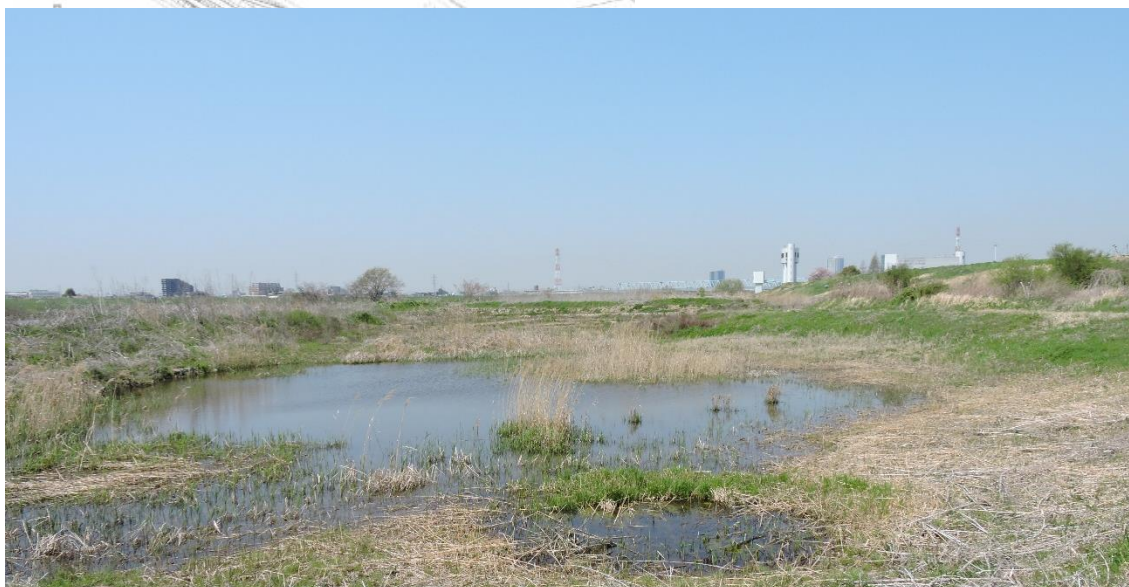
里見公園下の江戸川から旧坂川の河口を含む江戸川河川敷です。

河川敷はヨシが優占し、実生によるサクラ類やヤナギ類などが散在します。河川敷には、国土交通省が造成したビオトープがあります。堤内地には畑も見られます。江戸川水面も調査範囲に含みます。

旧坂川の両側には、トウネズミモチやタブなどの常緑樹が多くなり、細長い樹林帯のようになっています。



2022年5月10日撮影

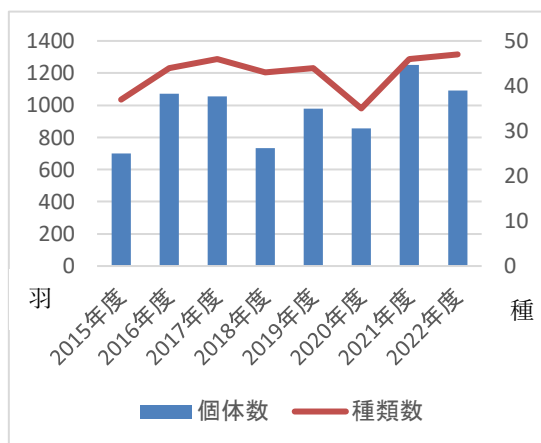


河川敷に造成されたビオトープ（造成間もない頃） 2017年4月14日撮影

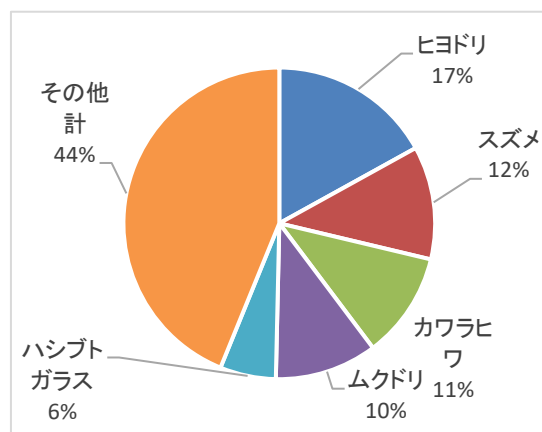
調査結果

8年間で34科76種の鳥類が確認されました。単年度では35種類から47種類で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は717羽～1,427羽の変動がありました。河川敷で群れが確認されることが多い、ムクドリ、スズメ、カワラヒワの出現状況が個体数の増減に影響を与えています。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、ヒヨドリが17%、スズメが12%、カワラヒワが11%、ムクドリが10%、ハシブトガラスが6%で、上位5種で56%です。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

繁殖している種は推定を含め、キジ、モズ、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロなどです。

千葉県レッドデータブックのカテゴリーで、X（消息不明・絶滅生物）は1種、A（最重要保護生物）は4種、B（重要保護生物）は5種、C（要保護生物）は9種、D（一般保護生物）は7種が確認されました。



カワラヒワとスズメの混群 2021年12月10日撮影

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

調査会によれば、市川橋から上流が調査範囲となっていて、本調査よりも広く設定されています。81種類が確認されています。本調査では76種が記録され、調査地の中では最も多くの種類数が確認されました。

ビオトープ池は造成後、ボランティアによる草刈りなどが行われていますが、自然の遷移には追いつかず、ヨシなどの植物が繁茂し徐々に池の水面は見えなくなっています。また、実生のヤナギ類も多く生えてきました。このような場所の環境管理の難しいところです。

河川敷ではキジが現在でも繁殖をしています。市内で確実に繁殖しているのは、ここだけになってしまったと思われます。近年、特定外来生物のアライグマの足跡も確認されていて、地上繁殖するキジへの影響が懸念されます。



オオヨシキリ（千葉県 RD：D ランク）
2021年5月18日撮影



セッカ家族群（千葉県 RD：D ランク）
2019年6月18日撮影



キジのペア
2020年4月28日撮影

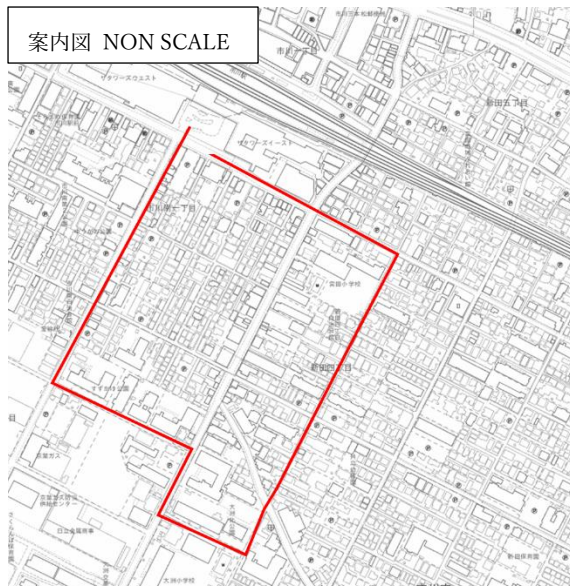


冬鳥のベニマシコとカシラダカ
2022年3月1日撮影

4-16. JR市川駅周辺

調査地概要

小学校や集合住宅の周囲には比較的緑が配置されていますが、JR市川駅の南側の住宅街なので緑は多くありません。



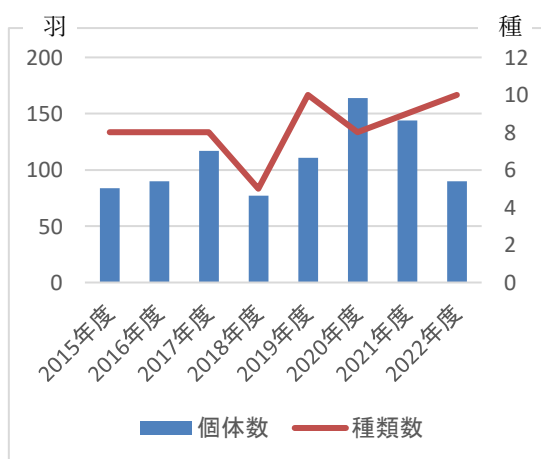
大洲小学校の周囲には緑が配置されている
2015年10月27日撮影

南市川1・2丁目～大洲4丁目～新田4丁目

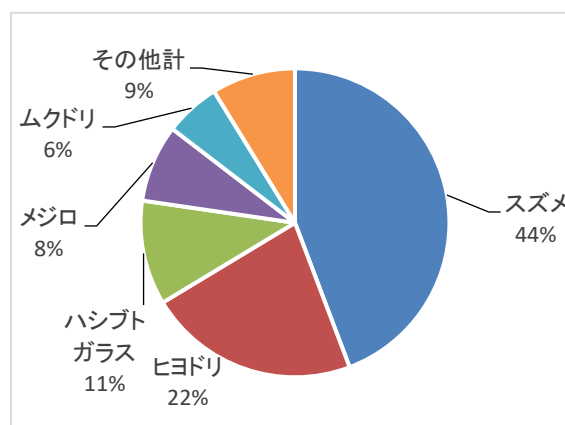
調査結果

8年間で11科13種の鳥類が確認されました。単年度の種数は5種～10種で変動しましたが、増減の傾向はありません。単年度の個体数は84羽～164羽で変動しました。

調査期間通期で確認された種別の個体数をみると、スズメが44%、ヒヨドリが22%、ハシブトガラスが11%、メジロが8%、ムクドリが6%で、上位5種で91%となり、都市鳥を中心の単調な鳥類構成になっています。



個体数と種類数の変化



8年間の出現種の総個体数割合

繁殖している種は推定を含め、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリなどです。
千葉県レッドデータブックに掲載されている鳥類は確認できませんでした。

市川市自然環境実態調査との比較及び考察

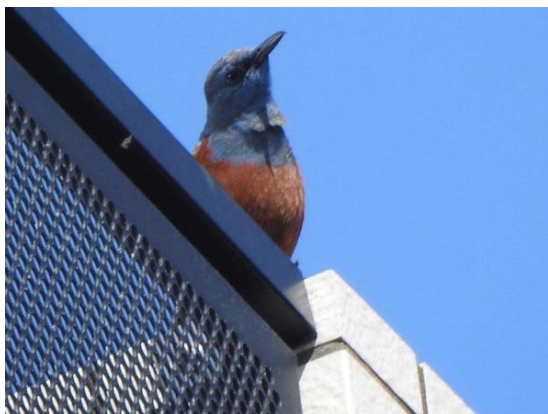
調査会によれば、2001年単年で8種類の鳥類が確認されています。本調査の結果でも単年度での確認種類数は5種類から10種類ですから、当時とほぼ同様です。

調査会によればオナガが観察されていますが、本調査では確認できませんでした。理由は分かりませんが、近年、オナガの個体数が減っているようです。

都市への進出が話題になっているイソヒヨドリが確認されました。調査地外ですが、八幡などで繁殖が確認されています。

当調査地は都市化された環境における鳥類相を把握、他の調査地と比較対比するための調査地としました。自然環境が単調になると、生息する鳥類も単調になることが証明されたとも言えます。

都市化された中でも、個人宅の植栽にカキなどの実のなる木を植栽することは、秋から冬に鳥類を誘致するためには有効な手段です。



イソヒヨドリ
2023年3月14日撮影



カキを食べるムクドリ
2017年12月19日撮影

5. レッドデータ掲載種

本調査で確認された 116 種類の鳥類のうち千葉県レッドデータ及び国（環境省）レッドデータに掲載されている種類は 49 種類でした。多くの鳥類が絶滅の危機に瀕していることがわかります。

種名	国RD	県RD	大町	大野水田	ふれあい水田	こざと公園	大柏川	柏井調節池	柏井の森	堀之内
オシドリ		B								
オカヨシガモ		C				○	○	○		
ヨシガモ		B					○	○		
スズガモ		D					○			
カイツブリ		C				○	○	○		
カンムリカイツブリ		D								
ダイサギ		D	○	○	○	○	○	○		
チュウサギ	NT	B		○	○	○	○			
コサギ		B	○	○	○	○	○	○		
クイナ		X					○			
ヒクイナ		A					○			
バン		B				○	○			
オオバン		C	○			○	○	○		
ホトトギス		C	○							
ツツドリ		C							○	
アマツバメ		A								
ムナグロ		B								
コチドリ		B		○	○		○			
セイタカシギ	VU	A								
チュウジシギ		A								
クサシギ		C					○			
タカブシギ	VU	B						○		
イソシギ		A					○			
ミサゴ		B								
ツミ		D	○	○		○				○
ハイタカ	NT	B	○		○				○	
オオタカ	NT	C	○	○			○		○	○
サシバ	VU	A								
ノスリ		C					○			
フクロウ		B	○							
カワセミ		C	○		○	○	○	○		
ブッポウソウ	EN									○
アカゲラ		C	○						○	○
サンショウクイ	VU	X							○	
サンコウチョウ		A							○	○
カケス		D	○						○	○
ヒバリ		D			○		○		○	
イワツバメ		D				○	○			
センダイムシクイ		C	○						○	○
オオヨシキリ		D		○		○	○			
セッカ		D			○		○			
ミンサザイ		C	○							
トラツグミ		A	○						○	○
コサメビタキ		A								○
キビタキ		A	○						○	○
キセキレイ		B	○			○	○		○	○
ホオジロ		C	○	○	○	○	○		○	
ホオアカ		C			○					
オオジュリン		D		○	○	○	○			
確認種類数49種			17種	9種	11種	14種	24種	8種	13種	11種

種名	国RD	県RD	小塚山	じゅん菜池	国分川	真間山	里見公園	江戸川	市川駅	確認カ所数
オシドリ		B		○						1カ所
オカヨシガモ		C		○	○			○		6カ所
ヨシガモ		B		○						3カ所
スズガモ		D		○	○					3カ所
カイツブリ		C		○	○			○		6カ所
カンムリカイツブリ		D		○				○		2カ所
ダイサギ		D		○	○			○		9カ所
チュウサギ	NT	B			○			○		6カ所
コサギ		B		○	○			○		9カ所
クイナ		X			○			○		3カ所
ヒクイナ		A								1カ所
バン		B			○			○		4カ所
オオバン		C		○	○			○		7カ所
ホトトギス		C								1カ所
ツツドリ		C					○	○		3カ所
アマツバメ		A						○		1カ所
ムナグロ		B			○					1カ所
コチドリ		B			○		○	○		6カ所
セイタカシギ	VU	A			○					1カ所
チュウジシギ		A						○		1カ所
クサシギ		C			○					2カ所
タカブシギ	VU	B			○					2カ所
イソシギ		A			○			○		3カ所
ミサゴ		B						○		1カ所
ツミ		D	○	○		○	○	○		9カ所
ハイタカ	NT	B		○			○			5カ所
オオタカ	NT	C	○	○	○		○	○		10カ所
サンバ	VU	A					○	○		2カ所
ノスリ		C					○	○		3カ所
フクロウ		B								1カ所
カワセミ		C		○	○		○	○		9カ所
ブッポウソウ	EN									1カ所
アカゲラ		C	○	○		○		○		7カ所
サンショウクイ	VU	X								1カ所
サンコウチョウ		A	○	○		○	○			6カ所
カケス		D	○	○		○	○			7カ所
ヒバリ		D			○			○		5カ所
イワツバメ		D			○	○				4カ所
センダイムシクイ		C		○		○	○			6カ所
オオヨシキリ		D			○			○		5カ所
セッカ		D			○			○		4カ所
ミンサザイ		C		○						2カ所
トラツグミ		A								3カ所
コサメビタキ		A								1カ所
キビタキ		A	○	○		○	○			7カ所
キセキレイ		B		○	○	○	○			9カ所
ホオジロ		C			○			○		8カ所
ホオアカ		C								1カ所
オオジュリン		D			○			○		6カ所
確認種類数49種			6種	20種	24種	8種	13種	26種	0種	

千葉県レッドデータ (2019年) カテゴリー

X: 消息不明 最最重要保護生物 B: 重要保護生物 C: 要保護生物 D: 一般保護生物

国 (環境省) レッドデータ (2020年) カテゴリー

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類

EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

6. おわりに

鳥類は環境指標として利用されることが多い生物です。都市化が進んでいる市川市の生態系の頂点に位置するのは、オオタカなどの猛禽類で、それを支える他の鳥やヘビやカエル、昆虫、植物などの多種多様な生物が生態系を構成しています。

多様な生物がバランスよく生きていることが、生物多様性が豊かである一つの目安になります。生態系の上位に位置する鳥類の動向をモニタリング（監視）することは、生物多様性の変化を知るためにはとても有効な方法なのです。

今回、8年間の調査をまとめた結果、懸念するような大きな変化は確認されませんでした。しかし、20年前に行われた調査会の調査と比べると、種類が減少している調査地もあり安心はできません。定期的にモニタリングを実施することが必要だと思われます。

残された市川市の豊かな自然環境を後世に引き継ぎたいものです。

調査・報告書作成：鈴木弘行（自然環境政策専門員）

7. 引用文献

- 唐沢孝一. 2002. 市川駅周辺等の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2001 : 121-130.
- 唐沢孝一. 2003. 市川市大町自然観察園の鳥類調査報告 (2002 年度). 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 151-166.
- 唐沢孝一. 2003. 大野町4丁目水田の鳥類調査報告 (2002 年度). 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 167-168.
- 唐沢孝一. 2003. じゅん菜池およびその他の地域の鳥類調査報告 (2002 年度). 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 169-174.
- 唐沢孝一. 2003. JR 市川駅とその周辺市街地の鳥類調査報告 (2002 年度). 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 175-180.
- 唐沢孝一・越川重治. 2003. 市川市内に生息する鳥類実態調査結果 (2000~2003) と鳥類からみた市川の自然環境の重要性. 市川市自然環境実態調査報告書 2003 : 309-338.
- 越川重治. 2002. 国分川調節池の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2001 : 131-136.
- 越川重治. 2003. こごと公園の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 181-187.
- 越川重治. 2003. 大柏川第1調節池 (北方遊水池) の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 188-194.
- 越川重治. 2003. 柏井調整池の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2002 : 195-199.
- 越川重治. 2004. 柏井青少年の森の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2003 : 341-344.
- 越川重治. 2004. 国分川調整池・こごと公園・大柏川第1調節池 (北方遊水池)・柏井調整池・国分高等学校とその周辺の鳥類補足調査報告 (2003 年). 市川市自然環境実態調査報告書 2003 : 345-354.
- 根本貴久. 2002. 市川市北西部の鳥類. 市川市自然環境実態調査報告書 2001 : 137-150.

調査地別の総出現種と個体数

資料

江戸川		大柏川第一調節池		じゅん菜緑地		国分川調節池		大町自然観察園		里見公園		こざと公園		柏井青少年の森	
種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数
ヒヨドリ	1312	ツバメ	1346	ヒドリガモ	5113	スズメ	2770	ヒヨドリ	2435	ヒヨドリ	1681	スズメ	1408	ヒヨドリ	1792
スズメ	909	コガモ	1207	キンクロハジロ	1418	ムクドリ	1620	シジュウカラ	1630	シジュウカラ	867	ハシビロガモ	622	メジロ	1225
カワラヒワ	852	スズメ	766	ヒヨドリ	1309	コガモ	954	メジロ	1528	ハシブトガラス	865	ユリカモメ	509	シジュウカラ	900
ムクドリ	821	アオサギ	739	カルガモ	1172	ツバメ	521	ハシブトガラス	736	メジロ	749	オオバン	263	ハシブトガラス	557
ハシブトガラス	449	ムクドリ	584	コガモ	1158	カルガモ	502	エナガ	572	エナガ	254	コガモ	251	エナガ	376
ツバメ	380	オオバン	537	オナガガモ	1001	ハクセキレイ	474	アオジ	540	ムクドリ	239	ムクドリ	185	コゲラ	283
アオジ	347	オオジュリン	334	ハシビロガモ	924	オオバン	437	ウグイス	273	スズメ	156	カルガモ	150	ツグミ	218
ツグミ	249	カルガモ	285	シジュウカラ	719	アオサギ	406	ヤマガラ	268	コゲラ	145	ヒヨドリ	127	カワラヒワ	204
シジュウカラ	218	カワウ	260	メジロ	698	カワラヒワ	394	コゲラ	210	キジバト	113	ツバメ	119	シメ	161
オオバン	168	ツグミ	222	ハシブトガラス	565	タヒバリ	386	カルガモ	172	ヤマガラ	109	カワラヒワ	85	ヤマガラ	157
ホオジロ	157	ヒヨドリ	204	エナガ	352	ツグミ	282	シロハラ	125	カワラヒワ	80	ダイサギ	83	キジバト	132
モズ	153	コサギ	199	マガモ	262	ダイサギ	233	キジバト	120	ウグイス	77	カワセミ	59	ウグイス	127
キジバト	151	ハシビロガモ	186	ムクドリ	252	コサギ	223	シメ	97	アトリ	76	シジュウカラ	59	アオジ	116
ユリカモメ	141	ハクセキレイ	176	スズメ	209	ハシブトガラス	166	カケス	80	シロハラ	72	ハクセキレイ	57	シロハラ	84
ハクセキレイ	128	カイツブリ	165	コゲラ	137	オカヨシガモ	164	ツバメ	70	アオジ	58	バン	56	スズメ	59
セッカ	109	カワラヒワ	150	ツバメ	119	ヒヨドリ	160	ツグミ	64	ツグミ	55	コサギ	49	ツバメ	60
メジロ	93	ダイサギ	144	キジバト	95	ハシブトガラス	148	カワラヒワ	54	シメ	48	アオサギ	41	ムクドリ	31
ハシブトガラス	91	ハシブトガラス	128	カイツブリ	93	カワウ	145	アオサギ	52	ツバメ	37	メジロ	32	ハクセキレイ	26
カワウ	80	ホオジロ	114	ウグイス	84	セッカ	123	キビタキ	51	ハシブトガラス	35	オオヨシキリ	29	モズ	23
オオジュリン	65	モズ	109	ホシハジロ	83	カイツブリ	119	マヒワ	50	キクイタダキ	31	ハシブトガラス	26	キビタキ	17
タヒバリ	64	セッカ	97	ヤマガラ	78	カワセミ	116	カワセミ	44	ハクセキレイ	28	カワウ	23	キセキレイ	12
ヒドリガモ	55	カワセミ	90	アオジ	68	キジバト	101	ルリビタキ	35	センダイムシクイ	17	オナガガモ	21	ハシブトガラス	12
カワセミ	53	キジバト	75	カワセミ	64	ユリカモメ	101	モズ	31	モズ	16	キジバト	18	カケス	11
オカヨシガモ	48	メジロ	62	ハシブトガラス	60	バン	90	キセキレイ	22	ルリビタキ	16	オオジュリン	11	アカゲラ	9
ウグイス	48	シジュウカラ	59	オカヨシガモ	44	モズ	81	ダイサギ	18	ジョウビタキ	11	ハシブトガラス	9	オナガ	6
アトリ	48	オカヨシガモ	58	カワラヒワ	35	オオジュリン	78	ハクセキレイ	17	オナガ	8	カイツブリ	8	ヒバリ	6
オオヨシキリ	46	ハシブトガラス	54	アオサギ	32	タシギ	75	アトリ	12	アカハラ	5	ツグミ	6	アカハラ	5
カルガモ	43	マガモ	47	オナガ	32	オオヨシキリ	73	オオタカ	11	キビタキ	5	コゲラ	5	ウソ	3
アオサギ	43	オナガガモ	45	カワウ	30	ヒドリガモ	62	ムクドリ	11	サンコウチョウ	4	オナガ	4	オオタカ	3
シメ	38	オオヨシキリ	41	ハクセキレイ	28	ハシビロガモ	52	オナガ	10	カケス	4	オカヨシガモ	3	セグロセキレイ	3
ヒバリ	33	ユリカモメ	40	ツグミ	26	アオジ	46	キクイタダキ	10	マミチャジナイ	4	エナガ	3	ルリビタキ	3
キジ	28	アオジ	38	ユリカモメ	21	ヒバリ	34	ジョウビタキ	8	ツツドリ	3	タシギ	2	オオムシクイ	2
ジョウビタキ	24	ヒドリガモ	30	オオバン	20	マガモ	33	スズメ	8	サシバ	3	セグロカモメ	2	キクイタダキ	2
カシラダカ	24	バン	29	シロハラ	18	オナガガモ	32	セグロセキレイ	8	キセキレイ	3	キセキレイ	2	ジョウビタキ	2
ダイサギ	21	オナガ	27	モズ	14	コチドリ	24	アカハラ	7	カワウ	2	ゴイサギ	1	ハイタカ	2
ウミネコ	21	ホシハジロ	23	アメリカヒドリ	12	タカブシギ	16	コサギ	5	オオタカ	2	チュウサギ	1	サンコウチョウ	1
ホシハジロ	19	コチドリ	21	ダイサギ	12	セグロセキレイ	16	アカゲラ	4	セグロセキレイ	2	ツミ	1	サンショウクイ	1
ショウドウツバメ	19	ヒバリ	18	シメ	10	クイナ	13	ウソ	4	アオサギ	1	モズ	1	センダイムシクイ	1

調査地別の総出現種と個体数

資料

江戸川		大柏川第一調節池		じゅん菜緑地		国分川調節池		大町自然観察園		里見公園		こざと公園		柏井青少年の森	
種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数
コゲラ	18	キンクロハジロ	17	キビタキ	9	イワツバメ	13	ツミ	3	コチドリ	1	イワツバメ	1	ツツドリ	1
コガモ	16	ウグイス	16	キクイタダキ	8	キセキレイ	11	ホオジロ	3	ヤマシギ	1	シロハラ	1	トラツグミ	1
ホムリカイツブリ	16	タヒバリ	13	ジョウビタキ	8	ゴイサギ	10	マガモ	3	ツミ	1	ジョウビタキ	1	ホオジロ	1
ベニマシコ	15	タシギ	10	ヨシガモ	7	メジロ	9	ミソサザイ	3	ハイタカ	1	セグロセキレイ	1	メボソムシクイ	1
エナガ	11	ゴイサギ	5	オオタカ	7	チュウサギ	7	センダイムシクイ	2	ノスリ	1	ホオジロ	1		
オオタカ	10	イソシギ	5	コサギ	6	シジュウカラ	7	トラツグミ	2	カワセミ	1				
アカハラ	10	オオタカ	5	ツミ	5	ホオジロ	6	ホトトギス	2	キマユムシクイ	1				
コチドリ	9	イワツバメ	5	ホムリカイツブリ	3	ノビタキ	4	エゾムシクイ	1	オオムシクイ	1				
アマツバメ	7	セグロセキレイ	5	カケス	3	ホシハジロ	3	オオバン	1	メボソムシクイ	1				
セグロカモメ	7	ベニマシコ	5	セグロセキレイ	3	イソシギ	3	オナガガモ	1						
ヤマガラ	7	スズガモ	4	オシドリ	2	チョウゲンボウ	3	カワウ	1						
バン	6	コゲラ	4	センダイムシクイ	2	ジョウビタキ	3	ハイタカ	1						
カイツブリ	5	チョウゲンボウ	4	エゾビタキ	2	セイタカシギ	2	ハシボソガラス	1						
コサギ	5	コムクドリ	4	ウソ	2	クサシギ	2	フクロウ	1						
オナガガモ	4	ジョウビタキ	4	スズガモ	1	オオタカ	2								
チュウサギ	3	チュウサギ	3	ミコアイサ	1	アトリ	2								
チュウジシギ	3	ノスリ	3	ゴイサギ	1	キンクロハジロ	1								
タシギ	3	クサシギ	2	ハイタカ	1	スズガモ	1								
チョウゲンボウ	3	トビ	2	アカゲラ	1	ムナグロ	1								
コムクドリ	3	エナガ	2	サンコウチョウ	1	オジロトウネン	1								
セグロセキレイ	3	シメ	2	ミソサザイ	1	コゲラ	1								
クイナ	2	ヨシガモ	1	アカハラ	1	ウグイス	1								
アジサシ	2	アマサギ	1	ルリビタキ	1	アカハラ	1								
トビ	2	クイナ	1	キセキレイ	1	イソヒヨドリ	1								
ノスリ	2	ヒクイナ	1	アトリ	1										
アメリカヒドリ	1	キセキレイ	1	カシラダカ	1										
マガモ	1														
ゴイサギ	1														
ツツドリ	1														
イソシギ	1														
ミサゴ	1														
ツミ	1														
サシバ	1														
アリスイ	1														
アカゲラ	1														
オナガ	1														
シロハラ	1														
イソヒヨドリ	1														

調査地別の総出現種と個体数

資料

真間山		ふれあい水田		堀之内貝塚		大野4丁目水田		柏井調節池		小塚山公園		JR市川駅周辺	
種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数	種名	個体数
ヒヨドリ	1529	スズメ	1623	ヒヨドリ	1191	スズメ	901	ハシビロガモ	317	ヒヨドリ	931	スズメ	388
ムクドリ	935	ムクドリ	699	メジロ	778	ムクドリ	394	オナガガモ	258	メジロ	810	ヒヨドリ	194
シジュウカラ	460	ツバメ	126	シジュウカラ	630	ツバメ	109	カルガモ	253	シジュウカラ	525	ハシブトガラス	96
ハシブトガラス	448	ツグミ	120	エナガ	316	ホオジロ	41	オカヨシガモ	148	ハシブトガラス	333	メジロ	71
メジロ	404	カワラヒワ	117	ハシブトガラス	270	ハクセキレイ	37	スズメ	119	エナガ	241	ムクドリ	51
スズメ	210	ヒヨドリ	107	スズメ	158	カワラヒワ	37	カイツブリ	118	コゲラ	115	キジバト	26
エナガ	160	ハクセキレイ	58	コゲラ	127	ツグミ	36	ヒドリガモ	77	カワラヒワ	76	ハクセキレイ	15
キジバト	128	アオジ	45	キジバト	127	ハシブトガラス	34	ムクドリ	66	ヤマガラ	54	ハシブトガラス	13
シメ	64	ハシブトガラス	44	ムクドリ	120	アオジ	34	コガモ	62	シメ	44	シジュウカラ	11
コゲラ	55	ハシブトガラス	42	シメ	116	ヒヨドリ	28	オオバン	47	キジバト	36	ツバメ	5
カワラヒワ	47	カルガモ	29	カワラヒワ	103	タヒバリ	24	キンクロハジロ	39	ムクドリ	34	カワラヒワ	3
ツグミ	43	モズ	25	シロハラ	85	モズ	18	カワウ	22	オオタカ	33	ツグミ	2
ツバメ	35	アオサギ	23	ヤマガラ	62	ハシブトガラス	16	ホシハジロ	18	ウグイス	32	イソヒヨドリ	2
ハクセキレイ	33	コチドリ	21	ウグイス	44	セグロセキレイ	13	ハクセキレイ	15	シロハラ	32		
シロハラ	31	タヒバリ	17	ツグミ	42	カシラダカ	13	ハシブトガラス	11	ツバメ	24		
ヤマガラ	27	タシギ	16	アトリ	42	キジバト	13	ツバメ	8	ツグミ	16		
オナガ	26	ダイサギ	15	ツバメ	33	アオサギ	12	キジバト	7	オナガ	15		
ウグイス	24	セグロセキレイ	12	ハシブトガラス	31	コチドリ	12	マガモ	6	スズメ	14		
ハシブトガラス	17	ヒバリ	11	アオジ	23	カルガモ	9	コサギ	6	キクイタダキ	13		
アトリ	17	カシラダカ	11	モズ	16	オオジュリン	9	アオサギ	4	ハクセキレイ	6		
キクイタダキ	13	キジバト	10	ハクセキレイ	16	タシギ	8	セグロセキレイ	4	モズ	5		
カケス	10	シジュウカラ	10	オナガ	10	シジュウカラ	7	モズ	3	ハシブトガラス	5		
モズ	9	ホオジロ	6	カケス	4	ダイサギ	6	カワラヒワ	3	ルリビタキ	5		
コムクドリ	7	カワセミ	5	オオタカ	4	メジロ	4	ダイサギ	2	キビタキ	5		
センダイムシクイ	6	チュウサギ	3	ジョウビタキ	3	チョウゲンボウ	3	ユリカモメ	2	アオジ	5		
アオジ	6	コサギ	3	アカハラ	3	カワウ	2	カワセミ	2	カケス	4		
アカハラ	5	チョウゲンボウ	3	センダイムシクイ	2	コサギ	2	ハシブトガラス	2	ツミ	3		
キビタキ	5	セッカ	3	キビタキ	2	ゴイサギ	1	ヒヨドリ	2	ジョウビタキ	3		
ツミ	4	オオジュリン	3	アカゲラ	2	チュウサギ	1	ヨシガモ	1	アトリ	3		
イワツバメ	3	カワウ	2	ブッポウソウ	1	ツミ	1	ゴイサギ	1	アカゲラ	1		
ジョウビタキ	3	ゴイサギ	1	トラツグミ	1	オオタカ	1	クサシギ	1	サンコウチョウ	1		
チョウゲンボウ	2	ハイタカ	1	ツミ	1	ウグイス	1	チョウゲンボウ	1	アカハラ	1		
サンコウチョウ	2	コゲラ	1	サンコウチョウ	1	オオヨシキリ	1	ツグミ	1				
キセキレイ	2	メジロ	1	コサメビタキ	1	ジョウビタキ	1						
アカゲラ	1	シメ	1	キセキレイ	1	イソヒヨドリ	1						
ルリビタキ	1	ホオアカ	1										

市川市鳥類モニタリング調査報告書

2015年度～2022年度

発行日 2024年1月

発行者 市川市環境部自然環境課

〒272-0023 千葉県市川市南八幡2丁目20番2号

TEL 047-712-6307